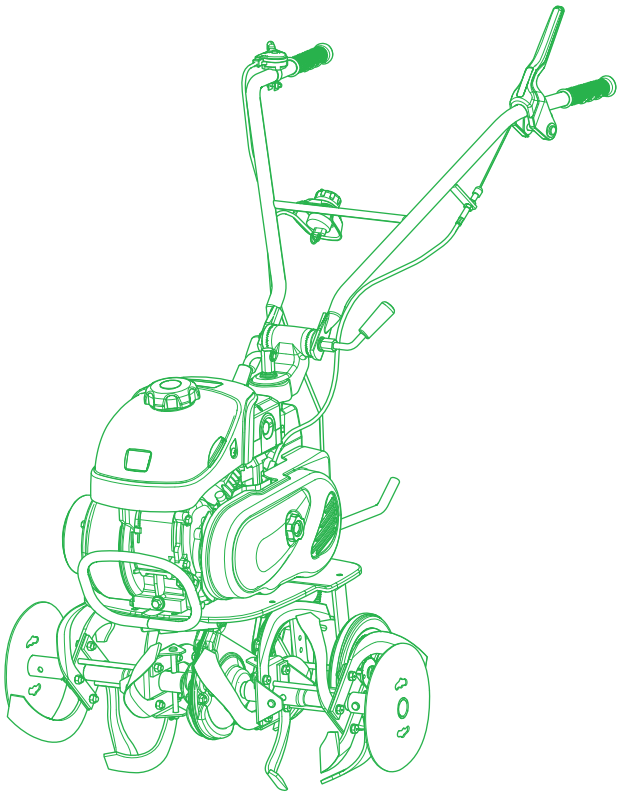
ミニ耕うん機

取扱説明書

MM300E・MM300A



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

このたびはミニ耕うん機をお買いあげ賜わり厚くお礼申し上げます。

●はじめに

この取扱説明書は本機の正しい取扱い方と簡単なお手入れおよび守っていただきたい安全に関する事項について説明しています。

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、安全で快適な作業をしてください。

・お読みになった後も身近な所に保管し、いつでも読めるようにしてください。
・本機を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書をいっしょにお渡しください。

・本書では安全上重要な事項を⚠で示し、次のように表示しています。必ず守ってください。

⚠危険	誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負うことになるものを示します。
⚠警告	誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠注意	誤った取扱いをしたときに、使用者がケガを負うおそれのあるものを示します。

・なお、本機の品質・性能向上あるいは安全のために使用部品を変更することがあります。その際には本書の内容およびイラストなどの一部が、本機と一致しない場合がありますのでご了承願います。

●機械の使用目的について

・本機はほ場での耕うん作業、農業用作業機を装着しての農作業にご使用ください。使用目的以外の作業や安全装置の取外しなどの改造は行わないでください。
・本機を使用目的以外の作業に使用したり、改造したりした場合は保証の対象となりません。（詳細は保証書をご覧ください。）

こんなとき、こんなことが知りたいとき、ここを見てください！

この取扱説明書は次のように構成されています。まず、**安全作業のために** からお読みいただき、基本事項から操作、点検まで本機の正しい取扱い方を理解してください。

安全作業のために 安全な作業をするための注意事項は？

安全な作業をしていただくために安全に関する基本事項、表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）について説明しています。よく読んで必ず守ってください。

組立のしかた ご自分で梱包を開かれたときは？

ご使用前に 使用前に知っておかなければならないことは？

本機の**保証・サービス**などについて説明しています。

各部のはたらき 各部のはたらきを知るには？

各部の主な名称、操作レバー、装置の取扱いを説明しています。

運転のしかた 本機を動かすには？

運転前の点検：作業前の点検項目と内容について説明しています。必ず実施してください。
運転操作のしかた：エンジンの始動、走行のしかた、自動車への積み降ろしのしかたなどを説明しています。

作業のしかた ほ場作業を行うには？

本機作業の基本操作を説明しています。作業機の条件や、ほ場条件にあった調整をして、上手な作業をしてください。

手入れのしかた 本機を長もちさせるには？

本機をいつも正常な状態に保つために手入れのしかたについて説明しています。
「**定期点検整備表**」に従って保守、点検してください。

長期格納のしかた 本機を１ケ月以上格納するときは？

本機を長期間格納するときの手入れのしかたについて説明しています。

不調時の処置 故障かなと思ったときは？

作業中のトラブルや不調、異常を感じたときはすぐ原因を調べ処置してください。

付　　表 諸元・関連部品は？

本機に係る諸元表・消耗部品などを一覧表で説明しています。

もくじ

安全作業のために……（安全作業説明編）

組立のしかた

ご使用前に ……1

1．保証とサービスについて…… 1
2．仕様（装備）について…… 2
3．用語について…… 2

各部のはたらき ……3

1．本機方向説明と各部の名称…… 3
2．運転装置の取扱い…… 4
1．エンジンコントロール関係…… 4
2．運転装置関係…… 5

運転のしかた ……8

1．運転前の点検…… 8
2．エンジンの始動と停止…… 9
1．エンジン始動のしかた…… 9
2．エンジン停止のしかた……11
3．発進・旋回・後進・停車のしかた……11
1．発進のしかた……11
2．旋回のしかた……12
3．後進のしかた［R型］……12
4．停車のしかた……12
4．自動車への積み降ろし……13
1．自動車・アユミ板について……14
2．乗用車での運搬……14

作業のしかた ……15

1．作業前の準備……15
1．抵抗棒の取付け……15
2．ローターの取付け……15
3．ハンドルの上下、左右調節……16
4．簡易うね立器の使いかた［U型］……16
2．ほ場作業のしかた……18
1．ほ場への出入りのしかた……18
2．作業に適した速度の選びかた［300A型］…18
3．抵抗棒の使いかた……18
4．上手なほ場作業のしかた……19

手入れのしかた ……20

1．定期点検整備……20
2．給油・注油のしかた……21
1．燃料の補給……22
2．エンジンオイルの点検・交換……22
3．ミッションケースのオイルの点検・交換…23
4．エアクリーナーのオイル補給……23
5．注油・給脂箇所……24
3．各部の点検と掃除のしかた……25
1．エアクリーナーの掃除……25
2．燃料ストレーナーの掃除……25
3．点火プラグの点検と掃除……26
4．リコイルスターター部の掃除……27
5．燃料ホースの点検……27
4．各部の点検と調整のしかた……28
1．主クラッチの調整……28
2．スロットルワイヤーの調整……29
3．ボルト・ナットの点検……29

長期格納のしかた ……30

1．本機の掃除と洗浄……30
2．エンジンの手入れ……31
3．格納……32
4．再使用するときは……32

不調時の処置 ……33

1．エンジン部……33
2．本機……34

付　　表 ……35

1．主要諸元……35
2．主な消耗部品……36
3．潤滑油について……37
4．付属部品一覧表……37

（安全作業説明編）

安全作業のために

ページ

1．安全作業のしかた……（安-1）

⚠作業前に次のことを守りましょう！……（安-1）

⚠安全作業のポイント……（安-2）

⚠作業前の一般的な注意事項……（安-3）

⚠点検・整備および掃除をするときは……（安-4）

⚠エンジンを始動するときは……（安-5）

⚠移動をするときは……（安-6）

⚠自動車への積み降ろしをするときは……（安-7）

⚠ほ場で作業をするときは……（安-8）

⚠１日の作業が終わったら……（安-10）

⚠長期格納するときは……（安-10）

2．表示ラベルについて……（安-11）

安全作業のために

1．安全作業のしかた

・安全上の重要な事項を ⚠危険 ⚠警告 ⚠注意 の３段階に分類して説明していますので、よく読んで理解し安全作業に努めてください。

・なお、この項の安全作業の説明は**ミニ耕うん機全般**についてのものです。これ以外にも本文の中でも同様に説明していますので、よく読んで必ず守ってください。

⚠作業前に次のことを守りましょう！

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆このような人は運転しないでください。

- ●酒気をおびた人
- ●妊娠している人
- ●16才未満の人
- ●指導者のいない運転未熟練者
- ●過労・病気・薬物の影響、その他の理由により正常な運転操作ができない人

◆運転する人は健康に気をつけて適切な睡眠と休けいをとってください。

➡ 誤操作しやすく思わぬ事故を起こすことがあります。

⚠警告 ◆本機を他人に貸す場合は取扱説明書もいっしょに渡して、安全な作業ができるよう説明してください。

◆本機の運転操作はよく練習し、じゅうぶんに慣れてから作業してください。

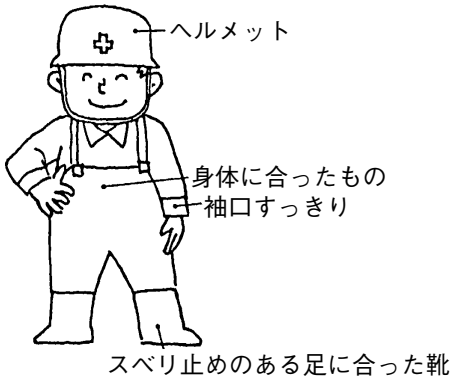
◆本書の内容が理解できない人や、子供には絶対運転させないでください。

➡ 借りた人が不慣れなため思わぬ事故を引起こすことがあります。

⚠警告 ◆作業に合ったキチンとしたものを着用してください。

➡ 下図のような服装は衣服が回転部に巻込まれたり、足をスベらせたりして思わぬ事故を起こすことがあります。

［良い例］



［悪い例］



⚠ 安全作業のポイント

●取扱説明書、本機のラベルをよく読んでから運転してください。

始業・点検　準備点検

●平坦な場所に本機を置きます。
●エンジン、マフラー、燃料タンク回りを掃除します。
●燃料ホース、電気配線を点検します。
●給油・点検はエンジンが冷えているときに行います。
●各部の締付け、セットピンの脱落はないか確認します。
●燃料補給時は火気を近づけるのは厳禁です。
●クラッチ、レバー関係が働くか点検します。
●取外したカバー類は全て取付けます。
●改造は厳禁です。

エンジン始動

●各操作レバーは取説に従い始動時の位置にします。
●本機の周囲から人を遠ざけます。
●屋内やハウスでの始動は、窓や戸を開けて換気をします。

自動車への積み降ろし

●アユミ板は強度、幅、長さ、すべり止め、フックのあるものを使用します。
●アユミ板は隙間がないものを使用します。
●アユミ板は自動車の荷台に平行にかけ、フックが外れないことを確認します。
●積み降ろしは２人作業で行ってください。
●周囲を確認し、本機の回りに人を近づけるのは厳禁です。
●エンジンを停止し、積込みは後進方向に引き上げ、降ろすときは後進方向に引き降ろしてください。

移　　動

●ハンドル回動式の場合は正規の位置で行います。
●発進は周囲を確認して行います。
●発進、停止、旋回は低速で行います。
●人や物を本機にのせるのは厳禁です。
●公道および夜間の移動は自動車にのせて行います。

狭い農道、不整地、傾斜地の移動

●スピードを落として走行します。
●下り坂では速度を下げてエンジンブレーキを使います。
●傾斜地では主クラッチを切ったり、変速レバーを《中立》にするのは厳禁です。
●車を避けるとき、端に寄りすぎないようにします。
●軟弱な路肩や草が生い茂っている所の走行は避けます。

停車・駐車

●平坦な場所でエンジンを停止します。
●傾斜地の駐車は厳禁です。（やむをえないときは輪止めをします）

ほ場作業　ほ場の出入り

●低速であぜに対して直角に出入りします。
●高あぜ、溝越え、急傾斜は隙間がなく、すべらない処理のしてあるアユミ板を使用します。
●あぜがくずれないか確認しゆっくり出入りします。

ほ場での作業

●人を本機のそばに近づけるのは厳禁です。
●旋回は周囲、足元を確認して行います。
●あぜ際での作業は枕地を十分とって旋回します。
●急傾斜地での作業は厳禁です。
●後進するときはエンジン回転を下げて背後の障害物を確認しゆっくりと後進します。
●後進はハンドルが持ち上がるのでしっかり押さえて後進します。
●疲れを感じたら無理に作業を続けず休憩をします。
●本機はライトが付いていないので夜間や暗い所での作業は厳禁です。

作業途中の点検

●運転直後のエンジン、マフラーなど高温部に触れるのは厳禁です。
●ローターなどに巻付いた草や土を取除くときはエンジンを停止して行います。
●作業機の脱着は平坦な場所で行います。
●取外したカバーはすべて取付けます。

格　　納　１日の作業が終わったら

●平坦な場所に置きエンジンを停止します。
●高温部が冷えてからエンジン、マフラー、燃料タンク回りを掃除します。

長期格納

●燃料コックレバーを「止」にし、気化器内の燃料を抜取ります。
●カバーはエンジンが冷えてからかけます。

⚠作業前の一般的な注意事項

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆本機はほ場での耕うん作業、農業用作業機を装着しての農作業にご使用ください。その他の目的では使用しないでください。

➡ 思わぬ事故を引起こすことがあります。

⚠警告 ◆本機や作業機の上に人や物を乗せないでください。人を近づけないでください。

◆共同作業者がいるときは、互いに注意してください。

➡ 思わぬ事故を引起こす原因となります。

⚠警告 ◆本機は改造しないでください。

➡ 改造すると本機の機能に悪影響を与えるだけでなく事故の原因になることがあります。

⚠警告 ◆本機を使用する前後に点検を行い、異常箇所は直ちに整備してください。

◆シーズンごとに定期点検・整備を受けてください。

➡ 整備不良が原因で思わぬ事故を引起こすことがあります。

⚠警告 ◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気をよくしてください。

◆換気が不十分な所では暖機運転や作業は行なわないでください。

➡ 排気ガス中毒で気分が悪くなったり、酸欠で脳障害になったり死亡することがあります。

⚠点検・整備および掃除をするときは……

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告

◆本機・作業機の点検・整備・掃除は平坦な場所でエンジンを停止してから行なってください。

➡ 傾斜地では本機が動きだし思わぬ事故を起こすことがあります。

⚠警告

◆エンジン、マフラー、燃料タンクまわりにワラクズやゴミなどが付着していないか作業前に点検し、付着していれば取除いてください。

➡ 火災事故を引起こすことがあります。

⚠危険

◆給油、注油、点検時はエンジンを停止させてください。エンジン回転中やエンジンが熱い間は給油、注油をしないでください。

◆燃料補給は火気のない所で行なってください。くわえタバコなどは厳禁です。

●燃料を補給したときは燃料キャップを締め、こぼれた燃料はきれいにふきとってください。

●エンジン始動前に給油、注油、各部の点検を行なってください。

➡ 燃料などに引火し、ヤケドや火災の原因となることがあります。

⚠注意

◆点検整備に必要な工具類は適正な管理をし、正しく使用してください。

◆本機には点検調整に必要な工具類を常備しておいてください。

➡ 整備不良で事故を引起こすおそれがあります。

⚠注意

◆点検・整備などで外したカバーなどは全て取付けてください。

●カバーは正しく取付けてください。

➡ 本機に巻き込まれたりして傷害事故を起こすことがあります。

⚠警告

◆各部のボルト・ナットのゆるみ、セットピンの脱落、損傷はないか確認してください。

●クラッチ、レバー関係などの操作部は確実に働くように調整してください。

➡ 思わぬ事故を引起こす原因となります。

⚠警告

◆電気配線のコードが他の部品に接触していないか、はがれや接合部のゆるみやガタがないかを点検してください。

➡ ショートしてヤケドや火災の原因となります。

⚠エンジンを始動するときは……

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆始動する前に周囲を確認し、本機の周囲から人を遠ざけてください。

➡ 人が近づくと傷害事故を引起こすことがあります。

⚠警告 ◆屋内やハウス内などでの始動は窓や戸をあけて換気を十分にしてください。

➡ 排気ガス中毒で気分が悪くなったり、酸欠で脳障害になったり死亡することがあります。

⚠警告 ◆主クラッチの《切》、主変速レバーの《中立》を確認してください。

◆始動は正しい姿勢で行なってください。

- 主変速レバーが《中立》になっているか手で動かして確認してください。
- 足場の不安定な場所での始動は行わないでください。やむをえない場合は本機を固定し、水平な状態で行なってください。
- 周囲を確認し、合図してから始動してください。

➡ 変速やクラッチが入っていると本機が急に動き出し人身事故や傷害事故の原因となることがあります。

⚠警告 ◆暖機運転は主クラッチを《切》、主変速レバーを《中立》にして、平坦な場所で行なってください。

➡ 本機が動き出し人身事故や傷害事故の原因となることがあります。

⚠移動をするときは……

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆ハンドル回動式の場合は正規の位置にセットしてください。

➡ バランスがくずれて、転倒事故を起こすことがあります。

⚠警告 ◆発進するときは本機の回りから人を遠ざけて、低速で発進してください。

●前後左右を確認し、後進するときは屋内の支柱など背後に障害物がないことを確認して行なってください。

➡ 傷害事故を引起こす原因となります。

⚠警告 ◆急発進、急停止、急旋回はしないでください。

●移動は歩くスピードで、不整地は低速で行なってください。

●旋回するときは低速で行なってください。

➡ 転倒事故を引起こすことがあります。

⚠警告 ◆人や物を本機にのせないでください。

●道のりが遠くても、その他どんな場合でも人を作業機の上にのせないでください。

◆公道および夜間の移動は自動車にのせて行なってください。

➡ 傷害事故の原因となることがあります。

⚠警告 ◆道路の端には寄りすぎないようにしてください。

●車を避けるとき、端に寄りすぎないでください。

●軟弱な路肩や草が生い茂っている所は走行しないでください。

●雨天、雨あがりのときは低速で慎重に移動してください。

➡ 路肩がくずれ、横転事故を引起こすことがあります。

⚠警告 ◆傾斜地では主クラッチを操作しないでください。

◆傾斜地では主変速レバーを操作しないでください。

●下り坂では低速でエンジンブレーキを使用して移動してください。

➡ エンジンブレーキがきかなくなり事故の原因となります。

⚠警告 ◆停車、駐車をするときは平坦な場所に置き、エンジンを停止してください。

●傾斜地には駐車しないでください。やむをえず傾斜地に止めるときは本機の安定を確認し、輪止めをしてください。

➡ 本機が動き出して事故の原因となります。

⚠自動車への積み降ろしをするときは……

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆荷台から本機がはみ出さない自動車を使用してください。

- 自動車は変速を「後進」(MT車)、「P」(AT車) に入れ、駐車ブレーキをかけ、輪止めをします。

➡ 思わぬ事故を引起こします。

⚠危険 ◆乗用車などの密閉空間になる状態で本機を運搬する場合は、燃料タンクおよび気化器内の燃料を完全に抜き取ってから積込んでください。

➡ 燃料が気化し室内にガソリン臭が充満したり、燃料洩れが発生し火災の原因になります。

⚠警告 ◆アユミ板は強度、幅、長さ、すべり止め、フック付き、耕うん爪が引掛からないものを使ってください。

- 本機の質量に耐える強度のもの（金属製）を使用してください。
- 幅がローター幅以上で、長さが荷台高さの４倍以上あるすべり止め付、フック付のものを使用してください。
- アユミ板は隙間がないものを使用してください。

➡ アユミ板が外れたりして転倒事故を起こすことがあります。

⚠警告 ◆アユミ板を荷台に平行にかけてください。

- アユミ板は荷台に対して真っ直ぐにかけてください。
- 荷台にかけた端が外れないようにフック付のアユミ板を使用してください。
- エンジンを停止し、積込みは後進方向に引き上げ、降ろすときは後進方向に引き降ろしてください。
- 積み降ろしは２人作業で行ってください。
- 本機の回りに人を近づけないでください。

➡ バランスがくずれて転倒事故を起こすことがあります。

⚠ほ場で作業をするときは……

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆急傾斜、溝越え、高あぜのあるほ場への出入りは隙間がなく、すべらない処理がしてあるアユミ板を使ってください。

◆あぜ越えは低速であぜに対して直角に出入りしてください。

●アユミ板を使用するときはエンジンを停止し、引き上げてください。

●あぜがくずれないか確認しゆっくり行なってください。

➡ バランスをくずしたりして転倒事故を引起こすことがあります。

⚠警告 ◆作業中は本機のそばに人を近づけないようにし、わき見運転や手ばなし運転をしないでください。

◆いつでも主クラッチが切れる姿勢で運転してください。

➡ 傷害事故の原因となります。

⚠警告 ◆旋回するときは周囲や足元を確認し、あぜの上にあがったり、土手ぎりぎりで旋回しないでください。

●あぜ際での作業は枕地を十分にとって余裕をもって旋回してください。

➡ 傷害事故を引起こすことがあります。

⚠警告 ◆後進するときはエンジン回転を下げて背後の障害物の位置を確認し、ゆっくりと行なってください。

●ハンドルがはね上がらないようにしっかりとハンドルを握って低速で後進してください。

➡ 後進するときはローターの回転でハンドルがはね上がり、思わぬ事故を引起こすことがあります。

⚠警告 ◆ロ―ターなどに巻付いた草や土を取除くときやロ―ター爪の交換をするときは、平坦な場所でエンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。

➡ 巻き込まれたりして傷害事故を引起こすことがあります。

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆作業前にほ場から棒、大きな石、針金、ガラスなどを取除いてください。

◆作業中異物に当たったときはすぐにエンジンを止め、損傷を調べてください。
損傷したまま再始動しないでください。

➡ 回転している爪に異物が当たると強い力で異物が飛び散り、傷害事故を起こしたり、また損傷したままの本機を使用すると思わぬ事故を起こすことがあります。

⚠警告 ◆夜間作業を行わないでください。

➡ 本機に巻き込まれたりして傷害事故を起こすことがあります。

⚠警告 ◆急傾斜地では作業をしないでください。

➡ 転倒事故を引起こす原因となります。

⚠警告 ◆作業途中で点検するときは高温部に触れないでください。

- 点検、掃除はエンジンを停止し、高温部は冷えるまでは直接触れないでください。
- 取外したカバーは全て取付けてから作業を開始してください。

➡ ヤケドすることがあります。

⚠警告 ◆ハウスや小屋の中で作業するときは背後や支柱際の障害物を確認しながら行なってください。

- 支柱やカモイに頭を打ったりハンドルを引っかけたりしないようにしてください。
- 支柱際の作業での旋回はハンドルを壁と反対側の広い方に回して旋回してください。

➡ 本機と支柱の間にはさまれたりして傷害事故を引起こすことがあります。

⚠ 1日の作業が終わったら……

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆作業が終了したら平坦な場所でエンジンを停止して点検を行い、掃除をしてゴミなどを取除いてください。

- 高温部が冷えてからエンジン・マフラー・燃料タンク回りのゴミなどを除去・掃除を行なってください。
- 掃除後指定箇所に注油してください。

➡ 火災の原因となることがあります。

⚠警告 ◆カバーをかける場合はマフラーやエンジンが冷えてから行なってください。

➡ 火災事故を引起こすことがあります。

⚠ 長期格納するときは……

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆各部を水洗いして平坦なところで本機を安定させて格納してください。

- 故障箇所、爪の摩耗があれば早目に修理、交換してください。
- ボルトやナットがゆるんだ状態であれば直ちに締めつけてください。

➡ 思わぬ事故の原因になることがあります。

⚠警告 ◆シーズン終了後には定期点検を受けてください。

- 1年ごとに定期点検・整備を受け、各部の保安を確保してください。

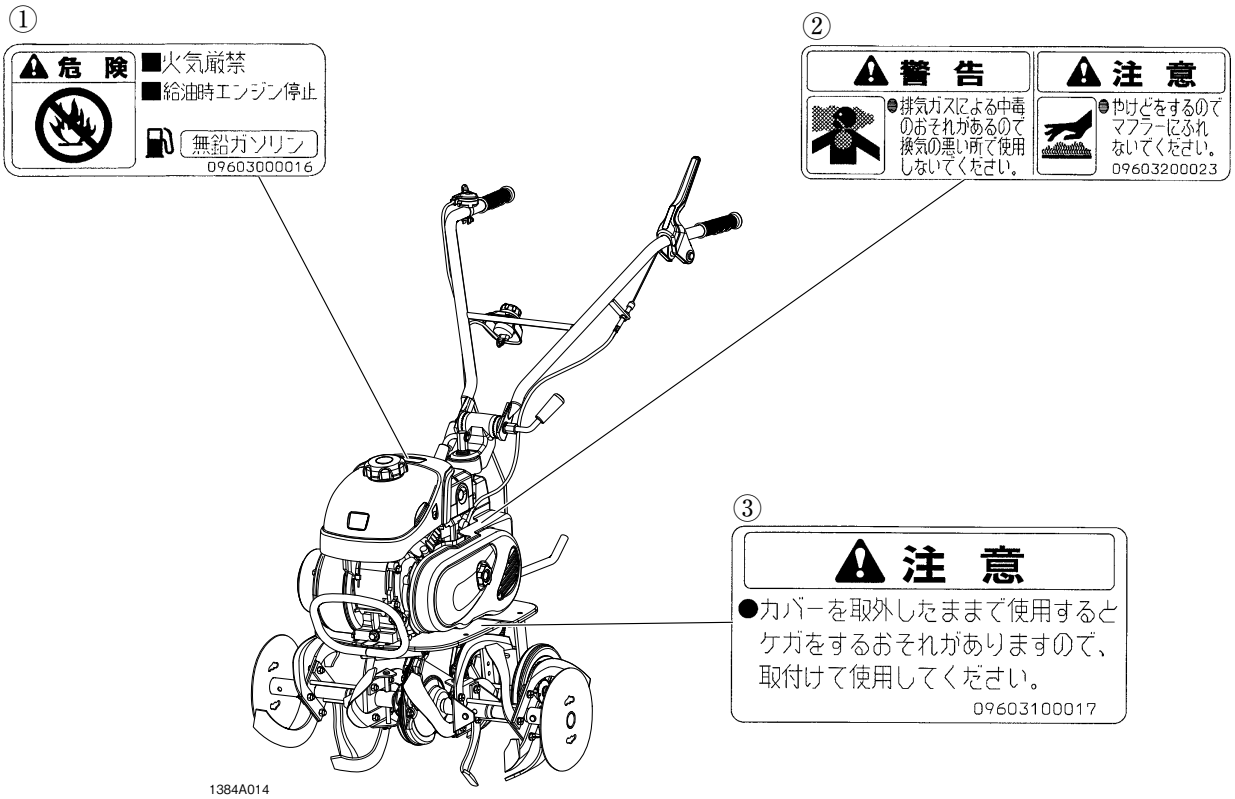
◆燃料を抜取ってください。

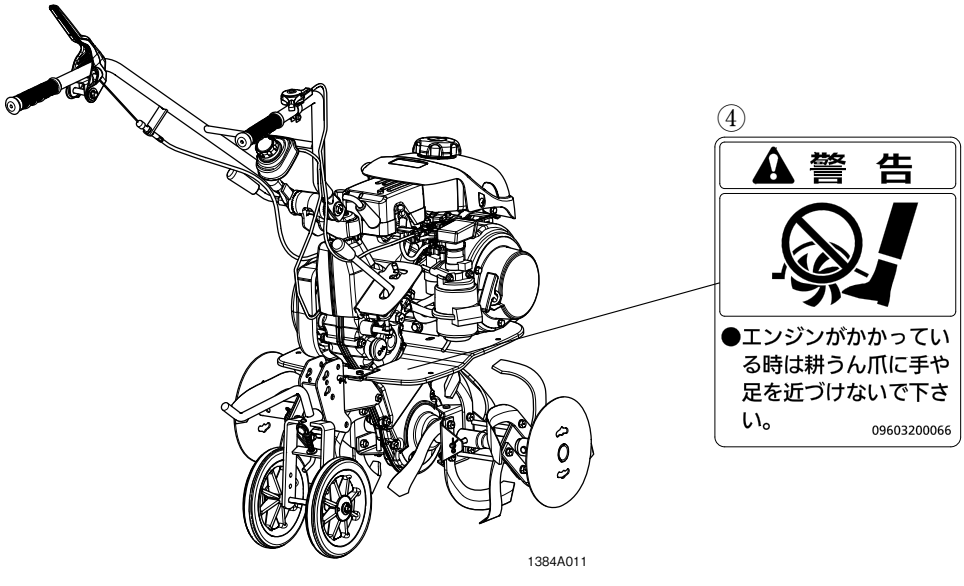
- 燃料腐食で気化器内部を腐食させるので燃料コックレバーを《止》にし、気化器下側のプルドレンから気化器内の燃料を抜取ってください。その際、燃料は適切な容器で受けてください。

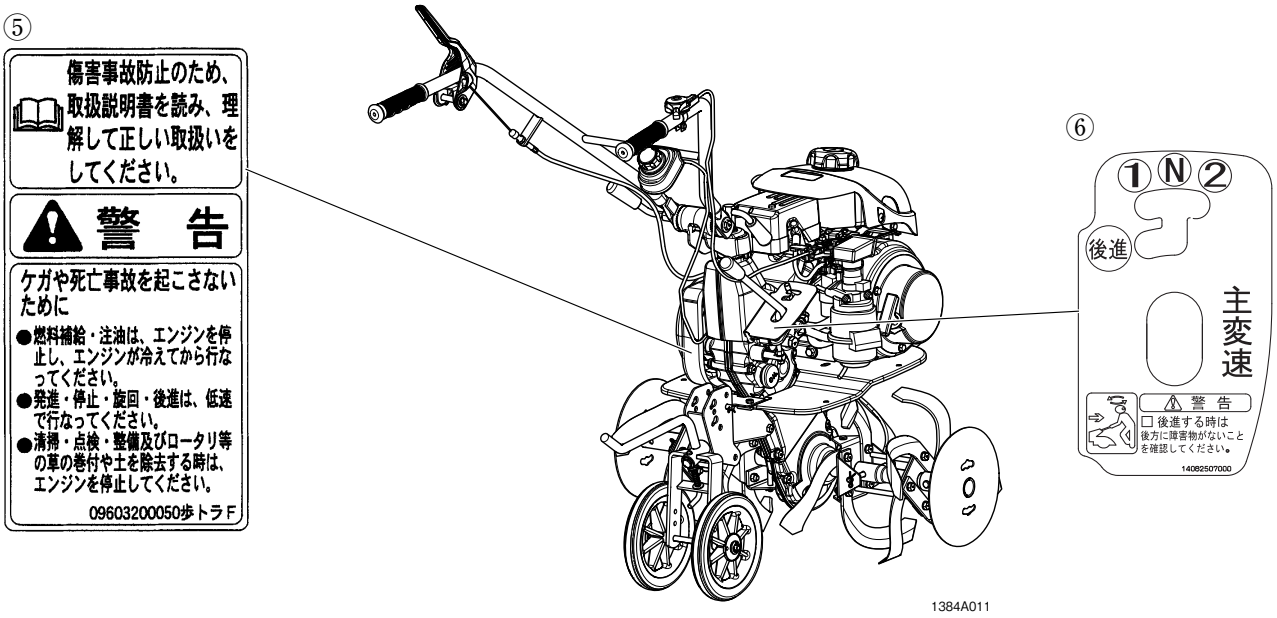
2. 表示ラベルについて

本機には各運転装置の近くに各々の安全な取扱い方について説明している表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）が貼付けてあります。各々のラベルの説明をよくお読みいただき守ってください。

また、本機に貼ってあるラベルが破損したりして読めなくなった場合やラベルの貼ってある部品を交換する場合は新しいラベルを**「お買いあげの販売店またはお近くの当社営業所」**に注文して購入し貼り替えてください。







No.	部　品　名　称	部　品　番　号	備　　考
①	キケンラベル　ガソリン	0960 3000 016	
②	ケイコクラベル　ハイガス	0960 3200 023	
③	チュウイラベル　カバー	0960 3100 017	
④	ケイコクラベル　タイン	0960 3200 066	
⑤	ケイコクラベル　ホトラF	0960 3200 050	
⑥	トリアツカイマーク	1408 2507 000	［R型］のみ

組立のしかた

次の手順で本機を運転できる状態にします。

1．本機・抵抗棒・ローター・移動尾輪・簡易うね立器を段ボールから取出します。
2．抵抗棒を取付けます。(15ページ参照)
3．折りたたんであるハンドルを使いやすい高さにセットし、ハンドル上下調節レバーで締め付けて固定してください。(16ページ参照)
4．ローターを取付けます。

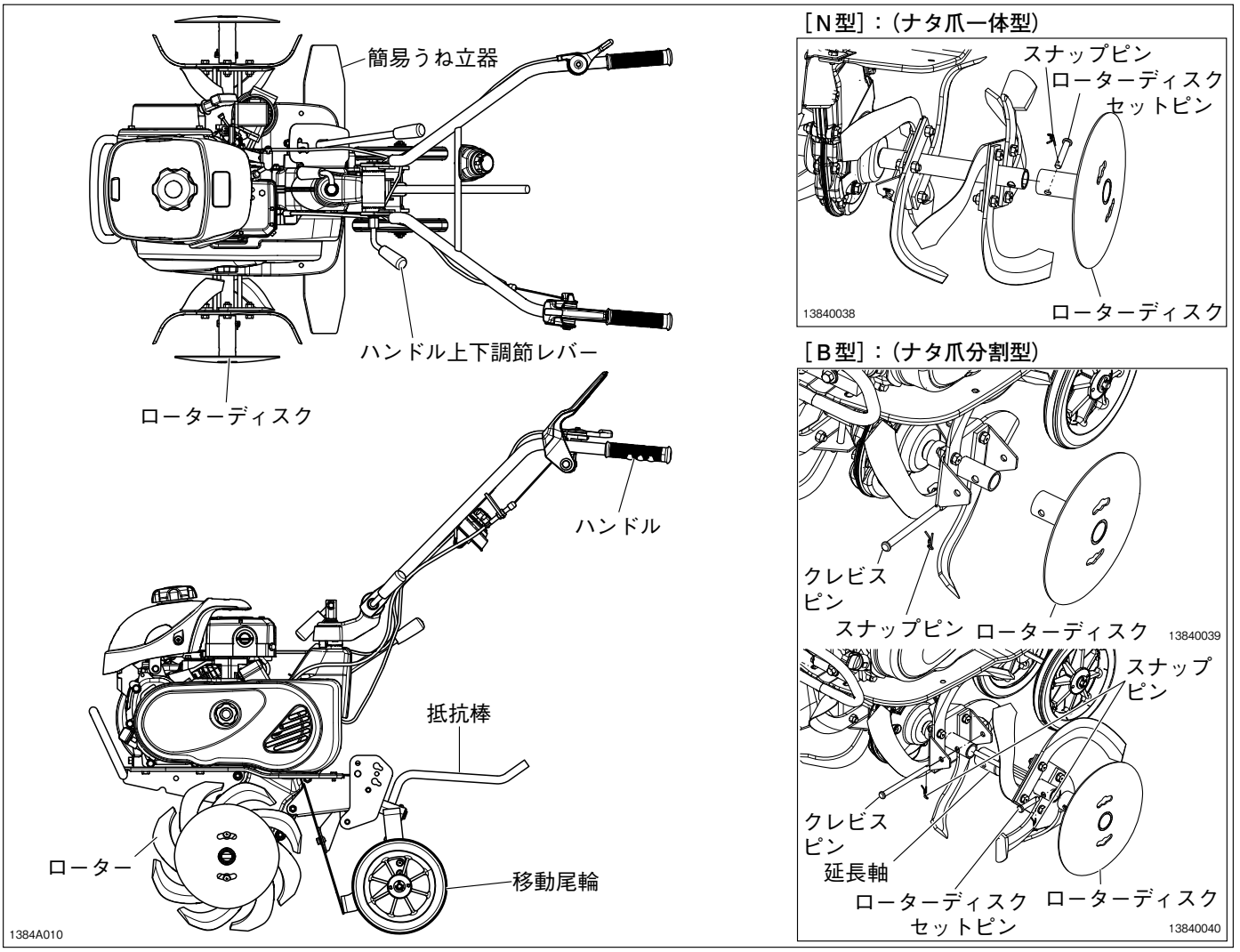
［N型］：(ナタ爪一体型)

① ローターディスクをローター軸に差込みピン穴を合わせて、ローターディスクセットピン、スナップピンを取付けてください。

［B型］：(ナタ爪分割型)

① クレビスピン、スナップピンを取外し、ローターディスクを取外します。
② 延長軸をローター軸に差込みピン穴を合わせてクレビスピン、スナップピンを取付けてください。
(延長軸は左右で耕うん爪の取付け方向が異なるため、耕うん爪の方向に注意してください。)
③ ローターディスクを延長軸に差込みピン穴を合わせて、ローターディスクセットピン、スナップピンを取付けてください。

5．簡易うね立器を取付けます。(16～17ページ参照)
6．エンジンおよびトランスミッションケースにオイルを給油します。(22～23ページ参照)
7．ガソリンを給油します。(22ページ参照)



地球環境を守るために

この製品は（社）日本陸用内燃機関協会（陸内協）が環境保全のために定めた排出ガス自主規制に適合しているエンジンを搭載しています。



この自主規制は小型汎用火花点火エンジンの排出ガス中の炭化水素（HC)、窒素酸化物（NOx)、および一酸化炭素（CO）を低減するためのもので、識別のため陸内協で決定した右図の適合ラベルをエンジンファンカバーなどに貼付けています。

使用期間中は、次の事項を守ってください

１．自主規制適合ラベルは剥がさないでください。

２．エンジンの点検整備は、取扱説明書にしたがって実施してください。
気化器の調整、部品交換が必要な場合には、「お買いあげの販売店またはお近くの当社営業所」にご相談ください。

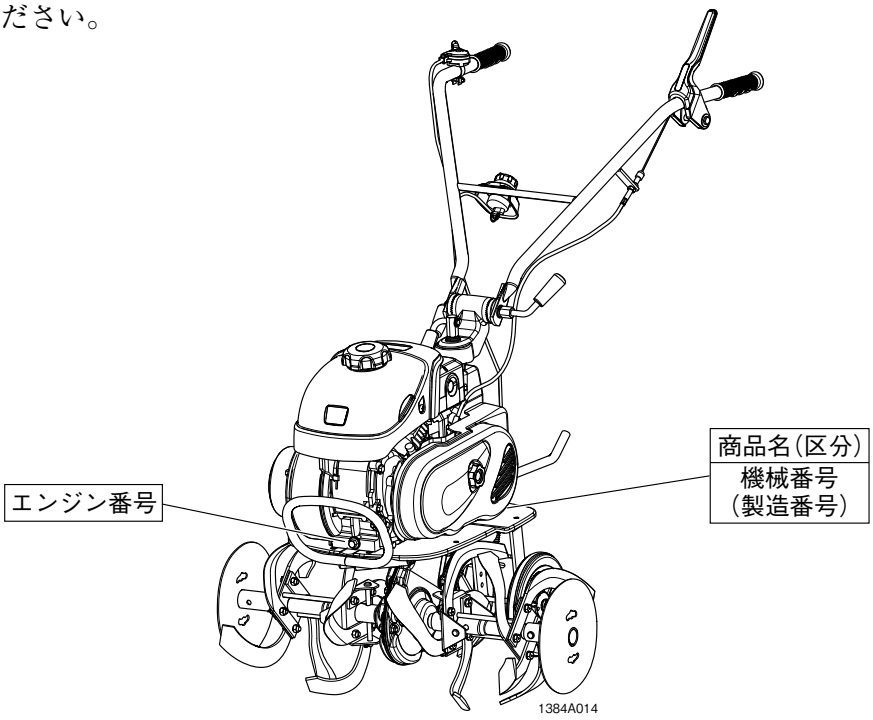
本エンジンは排出ガスの量が規定値内になるように管理出荷していますが、運転中の吸入空気と燃料の混合比に影響する気化器の調整、整備不良、不適切な部品交換がされた場合、排出ガス量は規定値を外れることがありますので注意願います。

ご使用前に

1．保証とサービスについて

・本機には保証書が添付されていますので、ご使用前によくお読みください。

・本機のサービスについてのお問い合わせや部品などのご用命のときは「**お買いあげの販売店またはお近くの当社営業所**」にご相談ください。その際「**商品名（区分）**」・「**機械番号（製造番号）**」と「**エンジン番号**」をお知らせください。



・補修用部品の供給年限について

・この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後９年といたします。
ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。

・補修用部品の供給は原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

本機の使用目的について

・本機は**ほ場での耕うん作業、農業用作業機を装着しての農作業にご使用ください**。使用目的以外の作業や改造などは行わないでください。

・本機を使用目的以外の作業に使用したり、改造したりした場合は保証の対象となりませんのでご注意ください。詳細は保証書をご覧ください。

⚠警告

◆本機を使用目的以外の作業に使用しないでください。

◆本機を改造しないでください。改造すると本来の機能を発揮できないばかりか、人身事故の原因になることがあります。

2. 仕様（装備）について

・お買いあげの本機の商品名をお確かめのうえ、お間違えのないようにお読みください。
・お買いあげの本機の商品名と主な仕様の違いを次の表でお確かめください。

商品名（区分）	仕　様	エンジン最大出力（kW {PS}）	変速段数			主クラッチ		ローター			移動尾輪	簡易うね立器
			前進1段	前進2段	前進2段・後進1段	デッドマン式	リターンクラッチ式	無し	ナタ爪一体型	ナタ爪分割型		
MM300E	−	2.2 {3.0}	○			○		○				
	N		○			○			○		○	
	NU		○			○			○		○	○
	ND		○				○		○		○	
MM300A	−			○		○		○				
	R				○	○		○				
	B			○		○				○	○	
	BU			○		○				○	○	○
	RB				○	○				○	○	
	RBU				○	○				○	○	○
	BD			○			○			○	○	

・区分の説明

ー＝ローターなし　　N＝ナタ爪一体型　　B＝ナタ爪分割型
D＝リターンクラッチ式　　R＝後進有り　　U＝簡易うね立器

3. 用語について

❶ マークの説明

この取扱説明書ではその都度守っていただきたい事柄を次のマークを使用して説明しています。

・危険 警告 注意 ……安全上重要な事項を３段階に分けて説明していますので必ず読んでください。
・**取扱いのポイント** ……本機の性能を最大限に発揮するための説明です。守らないと故障の原因になることもあります。

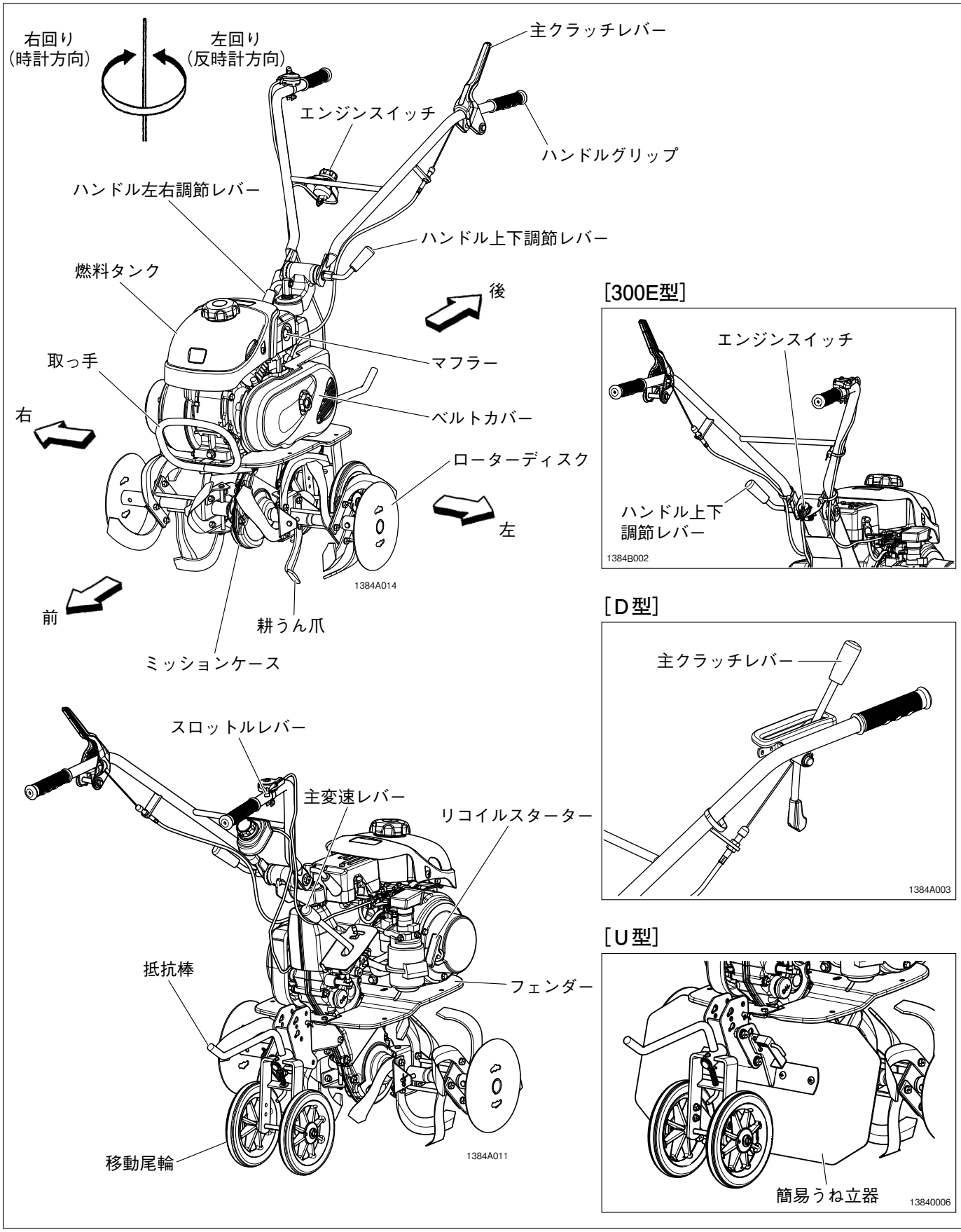
❷ 型式別表示

この取扱説明書はMM300ARBを基本に説明してあります。MM300ARBと取扱いかたが異なる場合は、そのつど［300E型］…［D型］などで記載して追加説明しています。

区　　分	本文表記
MM300E	［300E型］
MM300A	［300A型］
MM300EN　など	［N型］
MM300ABU　など	［B型］、［U型］
MM300ARB　など	［R型］
MM300ABD　など	［D型］

各部のはたらき

1．本機方向説明と各部の名称

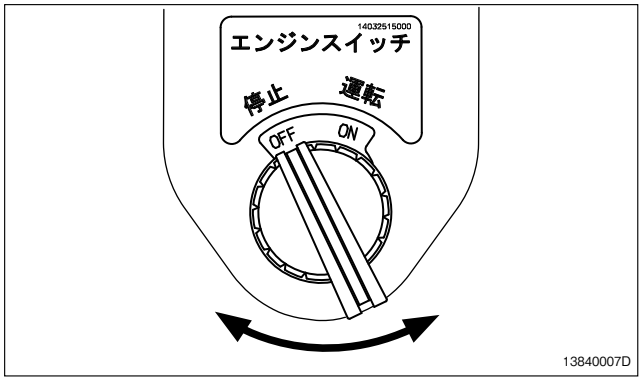


2. 運転装置の取扱い

1. エンジンコントロール関係

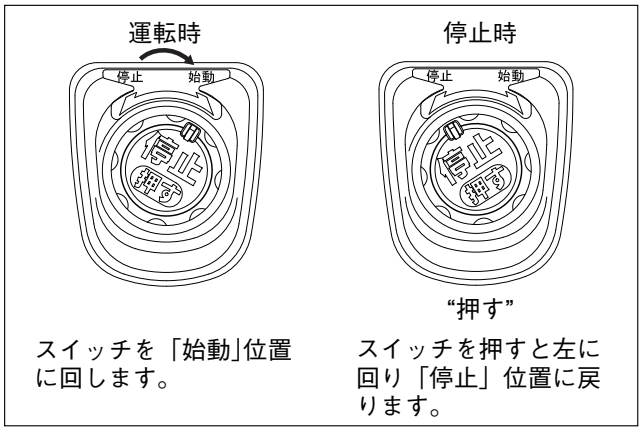
❶ エンジンスイッチ［300E型］

エンジンを運転（始動）・停止するときに回します。



❷ エンジンスイッチ［300A型］

エンジンを始動するときは右に回し、停止するときはスイッチを押します。

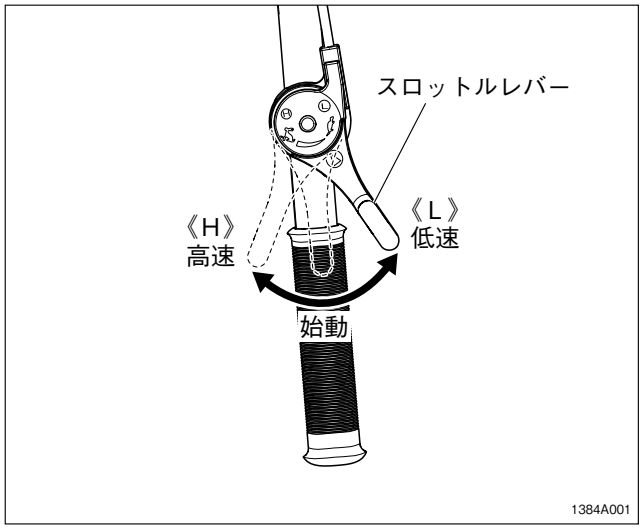


取扱いのポイント

●緊急時にエンジンを停止させたい場合はエンジンスイッチを押してください。

❸ スロットルレバー

・《L》……右に操作すると「**低速**」になります。
・《H》……左に操作すると「**高速**」になります。
エンジン始動時は「**中間**」にします。

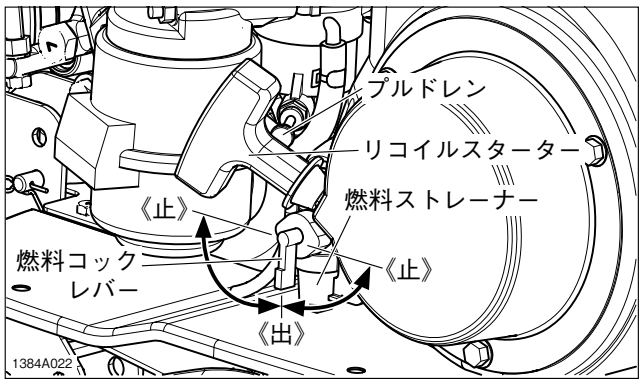


取扱いのポイント

●スロットルレバーを無理に操作すると故障の原因となることがあります。

❹ 燃料コックレバー

タンク内の燃料を出したり、止めたりするときに操作します。



❺ チョークレバー

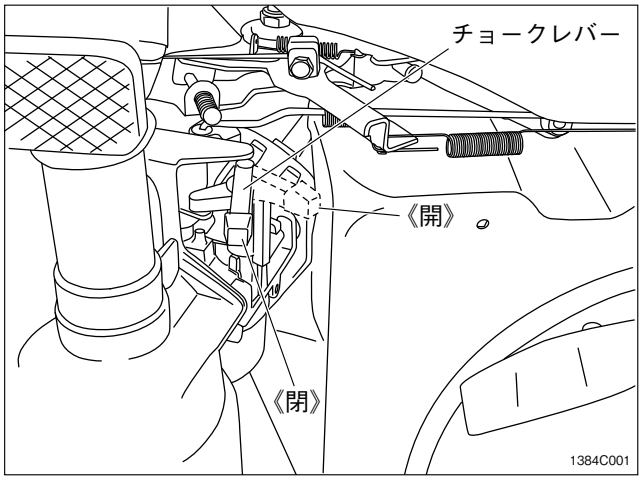
エンジンを始動するときに使用します。

レバーを《**閉**》の位置にすると燃料の混合気が濃くなり、エンジンの始動を容易にします。

エンジンを始動するときはチョークレバーを《**閉**》位置にします。

エンジンが暖まっているとき（運転停止直後の再始動時）はチョークレバーを《**開**》位置で始動します。

エンジンが始動したらエンジンの調子をみながらレバーを《**開**》の位置に戻します。(エンジンが暖まっているときでもエンジンが始動しない場合は、チョークレバーを《**閉**》の位置にしてください)



❻ プルドレン

気化器内の燃料を排出するときに使用します。燃料コックレバーを《**止**》位置にしてから引きます。

・流れ出る燃料は適切な容器に受けてください。

❼ リコイルスターター（ミラクルスタート）

エンジンを始動するときに使用します。

リコイルスターターの握りを引いてエンジンを始動します。

取扱いのポイント

- **通常のリコイルスターターよりゆっくり引いても始動できます。**
- **ロープをいっぱいまで引ききると故障の原因となることがあります。**
- **リコイルスターター内部を分解しないでください。内部のスプリングが飛び出す恐れがあり危険です。**
- **リコイルスターターを引くときは主クラッチレバーを握らないでください。**
- **運転中はリコイルスターターを引かないでください。**
- **周囲に人がいないことを確認してから始動してください。**

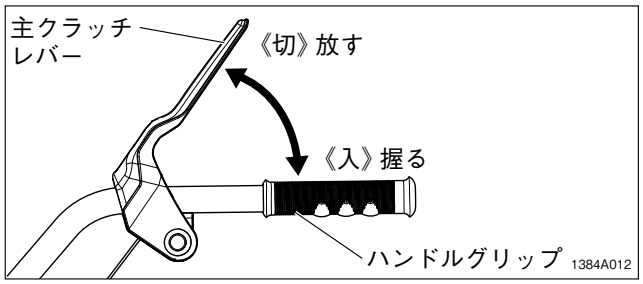
2. 運転装置関係

❶ 主クラッチレバー［D型以外］

車軸（ローター軸）の動力を《**入**》《**切**》するときに操作します。

クラッチ《**入**》操作は主クラッチレバーをハンドルグリップと共に握ります。

クラッチ《**切**》操作は主クラッチレバーから手を放します。

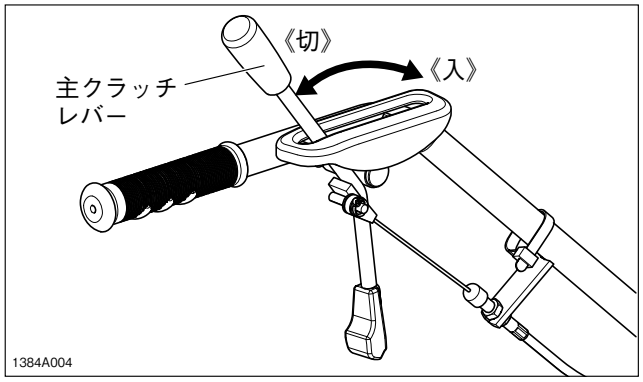


❷ 主クラッチレバー［D型］

車軸（ローター軸）の動力を《**入**》《**切**》するときに操作します。

クラッチ《**入**》操作は主クラッチレバーを前方に倒します。

クラッチ《**切**》操作は主クラッチレバーを手前に引きます。



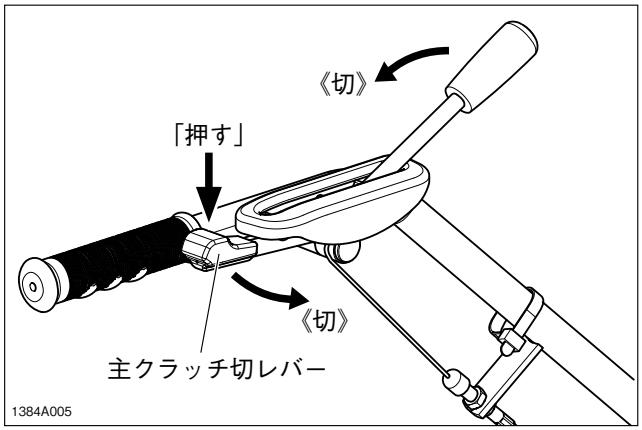
❸ 主クラッチ切レバー［D型］

⚠警告 傷害事故防止のために

◆主クラッチ切レバーを操作するときは、主クラッチレバーガイドの回りに手や物をおかないでください。また主クラッチ切レバーで《入》操作はしないでください。手や物がはさまれたりすると傷害事故になることがあります。

緊急時やハンドルを握ったままでクラッチを切るときは、主クラッチ切レバーを親指で押し下げます。

主クラッチレバーも同時に切れます。

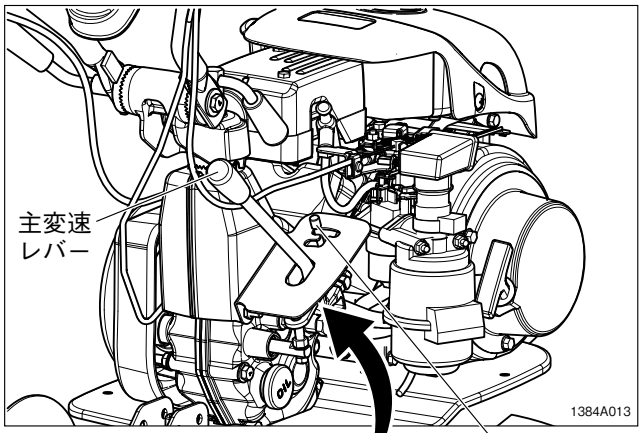


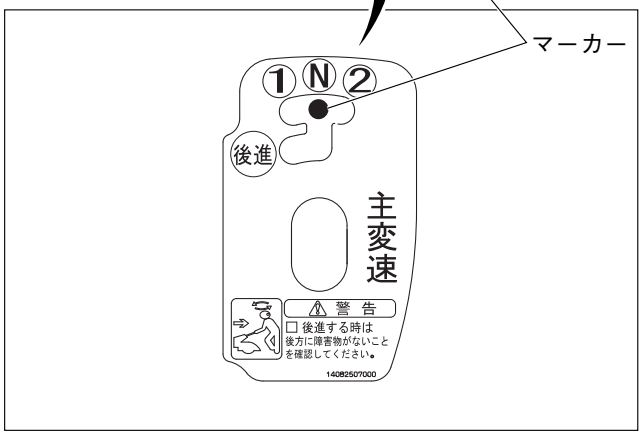
❹ 主変速レバー

［R型］

前進２段、後進１段の変速ができます。主クラッチレバーを《切》にして変速します。

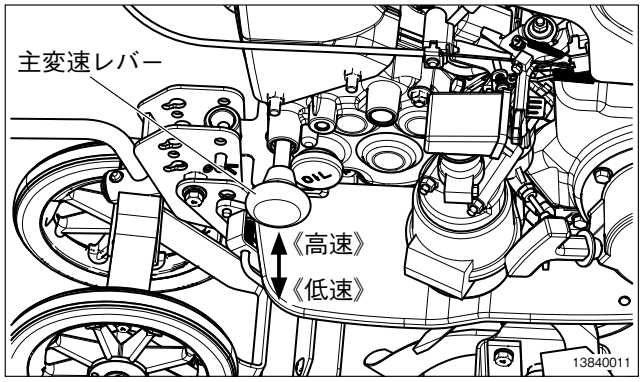
マーカーの位置が変速位置です。





［300A型］（R型以外）

主変速レバーを押し引きすることで前進２段の変速ができます。



❺ ハンドル左右調節レバー［300A型］

⚠警告 傷害事故防止のために

◆調節範囲以上にハンドルを上下すると各レバー操作時に傷害事故を引起こすことがあります。

◆ハンドルの上下、左右調節やハンドルを折り畳む際は、エンジンを停止して行なってください。

ハンドルを左右に回動するときに使用します。

ハンドルの左右調節は、ハンドル左右調節レバーをゆるめて調節します。

調節後は、ハンドルがガタつかないようにレバーを確実に締付けます。

❻ ハンドル上下調節レバー

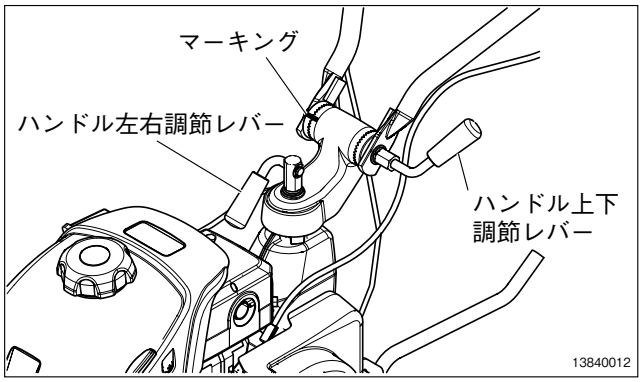
ハンドルを使用する人の体格や作業の種類に合わせて使いやすい高さに調節するとき、またはハンドルを折り畳むときに使用します。

作業しやすい高さは、ハンドルグリップを腰の高さに合わせるのが目安です。

・レバー側のハンドルとフレームに有る黄色のマーキングを合わせた位置がハンドルの標準高さ位置です。

・ハンドル高さの調節はハンドル上下調節レバーをゆるめて調節します。

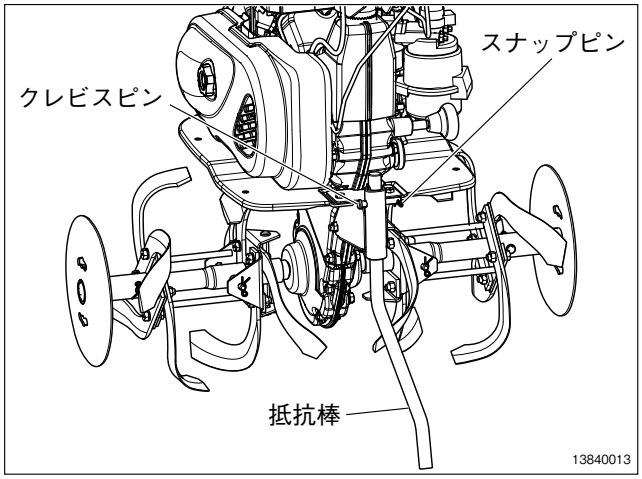
・調節後は、ハンドルがガタつかないようにレバーを確実に締付けます。



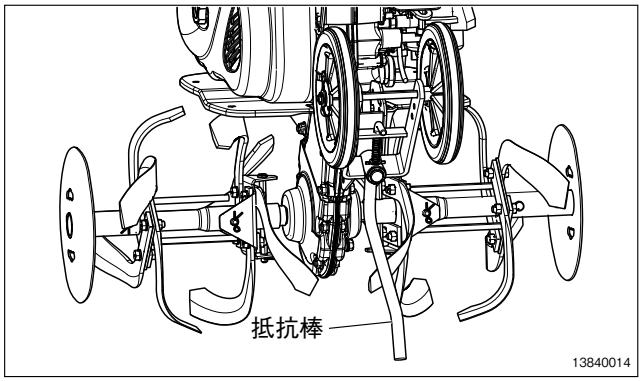
❼ 抵抗棒

耕うん深さと作業速度のバランスを取るために使用します。

［移動尾輪なし仕様］

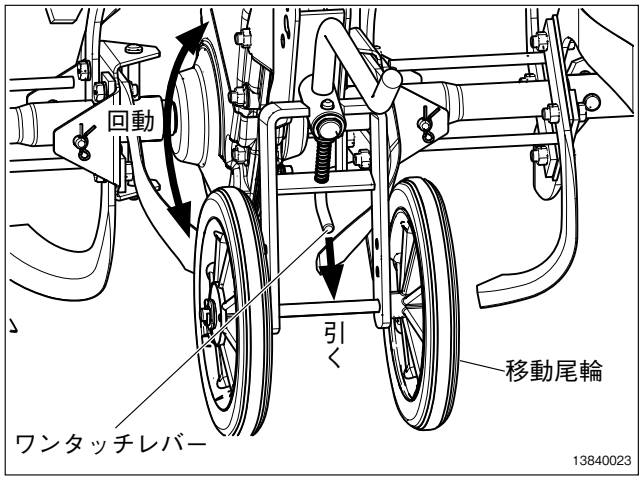


［移動尾輪付仕様］



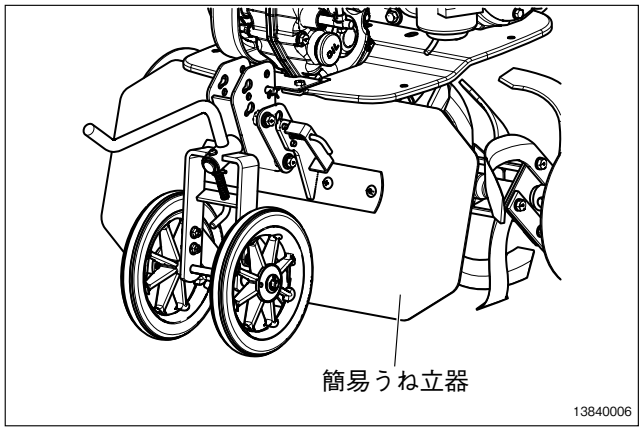
❽ 移動尾輪

移動するときまたは、簡易うね立て作業時に使用します。ワンタッチレバーを引っ張り、回動させると抵抗棒と移動尾輪をワンタッチで切り換えることができます。



❾ 簡易うね立器［U型］

簡易うね立て作業をするときに使用します。



運転のしかた

1．運転前の点検

安全作業のために毎日の運転前に「**運転前の点検表**」を参考に点検してください。

⚠危険 ヤケドや火災防止のために

◆給油・注油・点検するときには本機を平坦な場所に置き、エンジンを停止してから行なってください。
◆エンジン回転中やエンジンが熱いときは給油・注油をしないでください。
◆燃料補給時は火気に近づけないでください。燃料に引火し火災の原因になります。
◆燃料補給したときは燃料キャップを締め、こぼれた燃料はきれいにふきとってください。
◆燃料タンクや燃料ホースの劣化や、傷による漏れなどがあると火災の原因になります。作業前や作業後に点検し、傷や漏れがあれば交換してください。

「運転前の点検表」

点検箇所			処置
運転前に	エンジンオイルの量	・給油栓にあるレベルゲージの上下線の間に油面があるか。	・油面が給油栓レベルゲージの上限になるまで補給する。(22ページ参照)
	燃料ストレーナー	・水やゴミがたまってないか。 ・ネットの目詰まりはないか。	・掃除する。(25ページ参照)
	燃料タンク	・作業に必要な燃料があるか。	・無鉛ガソリンを補給する。(22ページ参照)
	エアクリーナー	・エレメントは汚れてないか。 ・オイルは汚れてないか。 ・オイルはレベルラインまであるか。	・掃除する。(25ページ参照) ・オイルをレベルラインまで交換または補給する。(23ページ参照)
	リコイルスターターの吸気口	・吸気口の目詰まりはないか。	・掃除する。(27ページ参照)
	燃料ホース	・燃料漏れはないか。 ・劣化してないか、また傷はないか。 ・継手部のクランプはゆるんでないか。	・ホースを交換する。(27ページ参照) ・クランプを交換してしっかりと固定する。
	エンジン、マフラー、燃料タンク周囲	・ワラクズなどのゴミがたまってないか。	・掃除する。
	耕うん爪	・爪が確実に固定されているか。 ・爪が摩耗していないか。	・取付部を締付ける。 ・爪を交換する。(15ページ参照)
	各部の注油	・油切れはないか。	・適量の注油をする。(24ページ参照)
	主変速レバー	・操作が重くないか。[R型]	・適量の注油、給脂をする。(24ページ参照)
エンジンを始動して	主クラッチレバー	・ゆっくりとレバー操作をしたとき正常に作動するか。	・異常箇所を調べ処置する。(5、28～29ページ参照)
	スロットルレバー	・ゆっくりとレバー操作をしたとき正常に作動するか。	・異常箇所を調べ処置する。(4、29ページ参照)
	エンジンスイッチ	・エンジンスイッチを操作したときエンジンが停止するか。	・異常箇所を調べ処置する。(4ページ参照)

2. エンジンの始動と停止

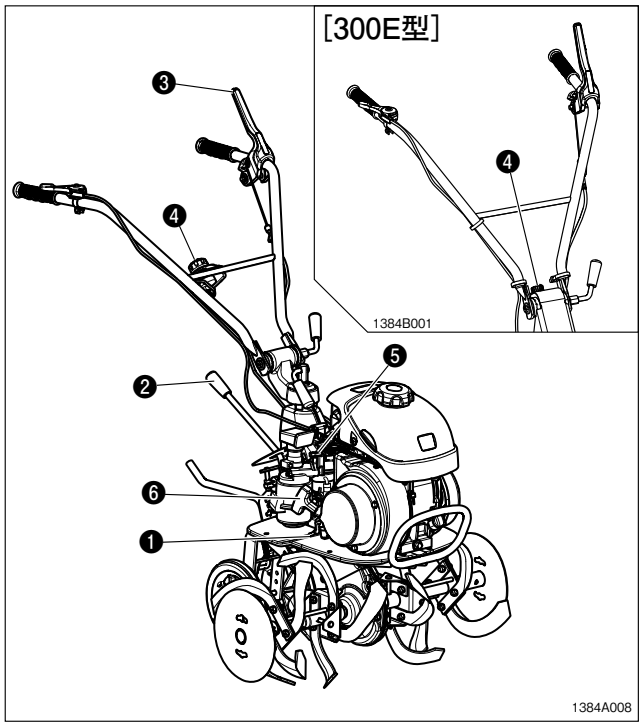
⚠警告 傷害事故防止のために

◆本機を平坦な広い場所に置き、マフラー、マフラー排気口付近の燃えやすいものは取除いてください。
◆ハンドルを離しても本機が動かないように抵抗棒または尾輪を接地させます。
◆エンジンを始動するときは主変速レバーを《中立》にしてください。[R型]
◆エンジンを始動するときは主クラッチレバーを《切》にしてください。
◆屋内やハウスでの始動は窓や戸を開けて換気を行い、排気ガス中毒にならないようにしてください。

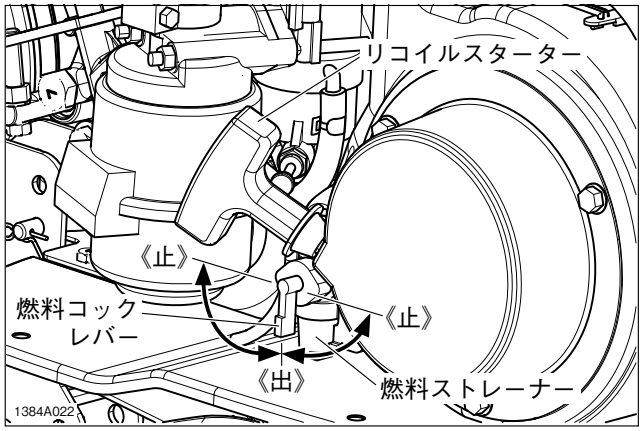
⚠注意 ヤケドや傷害事故防止のために

◆マフラーやエンジンには冷えるまで触れないでください。熱いときに触れると「やけど」をします。
◆点検などで取外したカバー類はすべて取付けてください。

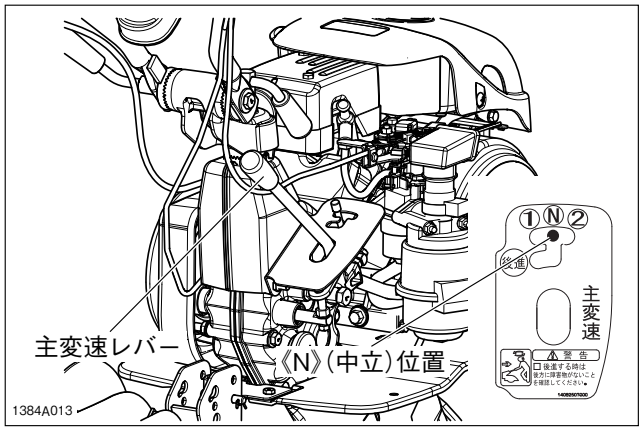
1. エンジン始動のしかた



❶ 燃料ストレーナーの燃料コックレバーを《出》位置にします。

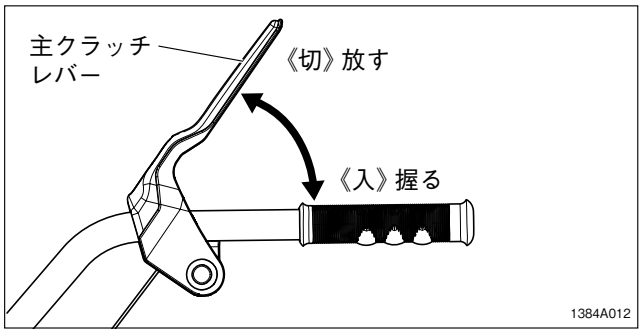


❷ 変速レバーを《N》(中立) の位置にします。[R型]



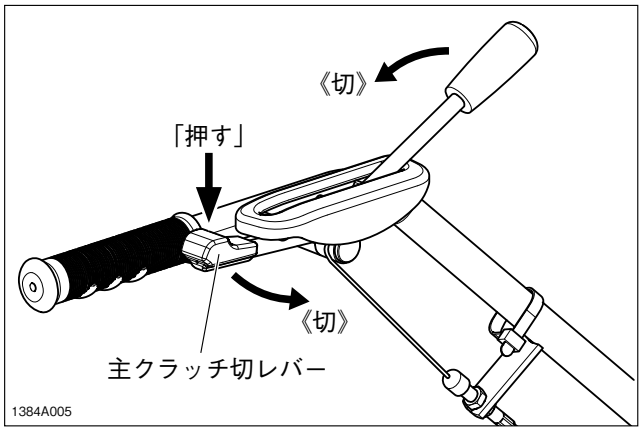
❸ 主クラッチレバーを《**切**》にします。

［D型以外］



主クラッチレバーより手を放せば自動的に《**切**》となります。

［D型］

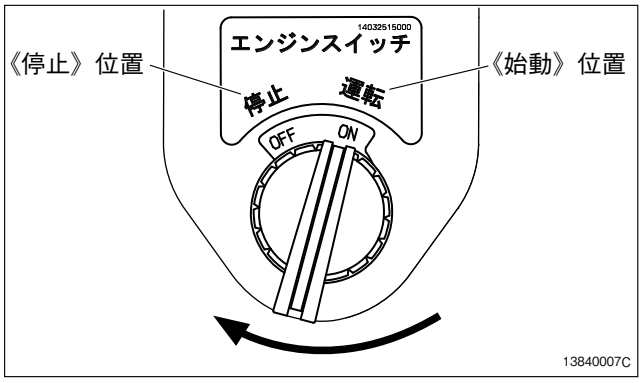


取扱いのポイント

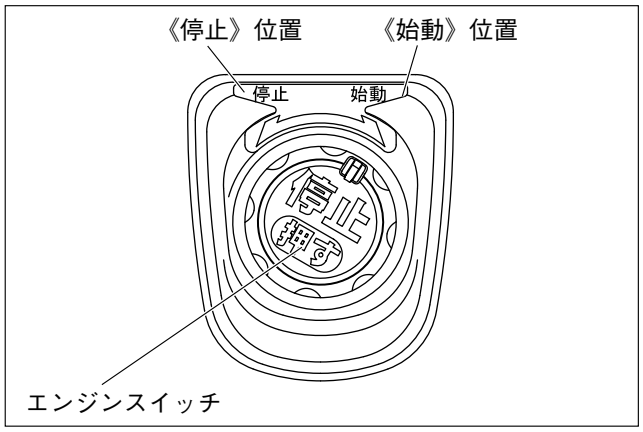
- **［D型］は主クラッチレバーが《入》では始動制御装置が作動してエンジンは始動しません。（始動安全装置付）**

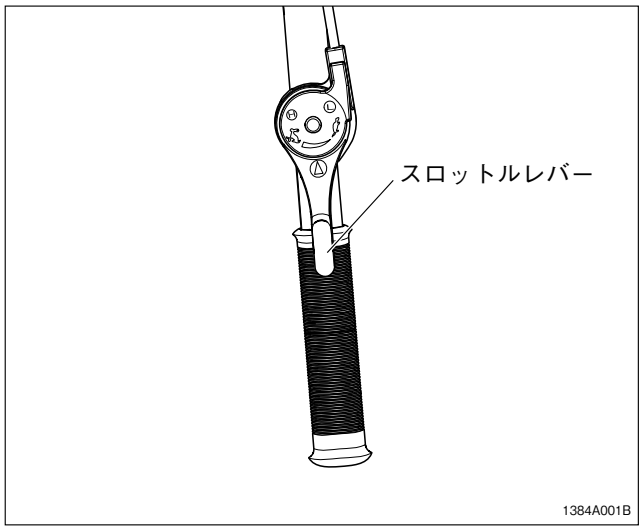
❹ エンジンスイッチを《**始動**》位置にし、スロットルレバーを《**L**》（**低速**）と《**H**》（**高速**）の中間にします。

［300E型］

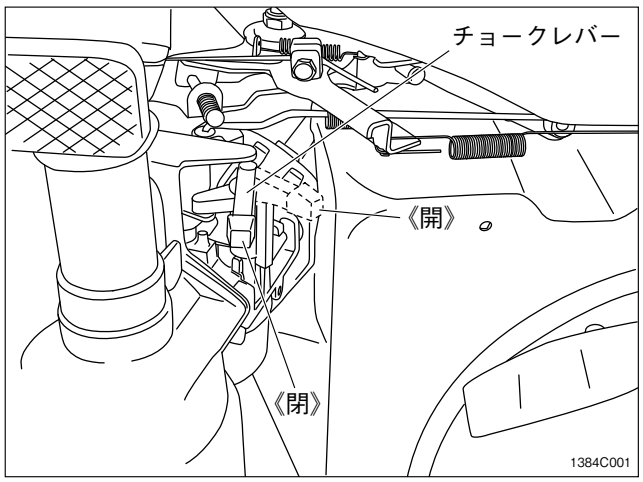


［300A型］





❺ チョークレバーを《**閉**》位置にします。



エンジンが暖まっているとき（運転停止直後の再始動時）はチョークレバーを《**開**》位置にします。(エンジンが暖まっているときでもエンジンが始動しない場合はチョークレバーを《**閉**》位置にしてください。)

❻ リコイルスターターの握りを引きます。
エンジンが始動したら調子をみながらチョークレバーを徐々に《開》に戻します。
・チョークレバーを《閉》にセットして２～３回で始動しないときは、燃料を吸込みすぎてさらに始動困難となるので､チョークレバーを《開》にセットしてリコイルスターターを２～３回ゆっくりと引きます。

取扱いのポイント

- **エンジン始動後はスロットルレバーを《L》（低速）と《H》（高速）の中間にし、約５分間暖機運転を行ってから作業をしてください。**
- **プラグキャップを外した状態でリコイルスターターを引かないでください。**
- **リコイルスターターを引くときは主クラッチレバーを《入》にしないでください。**

2. エンジン停止のしかた

❶ 主クラッチレバーを《切》にします。
❷ スロットルレバーを《L》（低速）にします。
❸ 主変速レバーを《中立》にします。［R型］
❹ エンジンスイッチを《停止》位置にしてエンジンを停止します。［300E型］
エンジンスイッチを押してエンジンを停止します。［300A型］
❺ 燃料コックレバーを《止》にします。

3. 発進･旋回･後進･停車のしかた

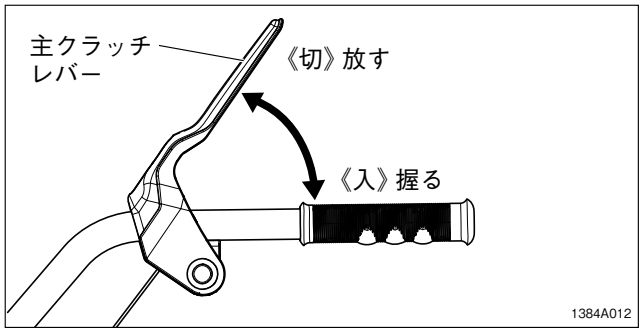
1. 発進のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

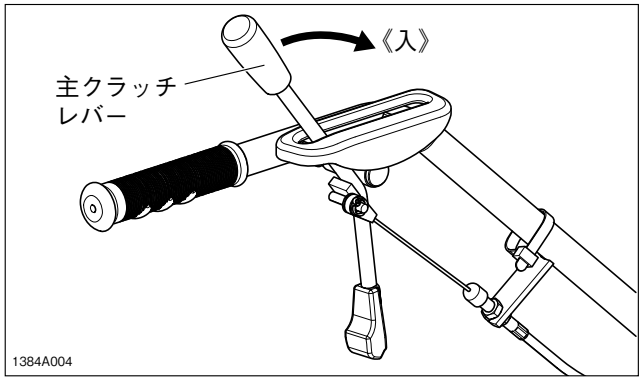
◆本機は小型特殊車両ではありませんのでトレーラーでの路上走行はできません。
◆エンジンを始動するとき、または主変速レバーを操作するときは主クラッチレバーを《切》にしてください。
◆主クラッチレバーを急激に操作すると急発進したり、エンジンが停止したりしますので徐々に《入》にしてください。
◆緊急時には主クラッチレバーから手を放してください。［D型以外］

❶ スロットルレバーを《L》（低速）にします。
❷ 主クラッチレバーを《切》にします。
❸ 主変速レバーを作業に応じた変速位置に入れます。［300A型］
❹ 主クラッチレバーを徐々に《入》にすると発進します。

［D型以外］



［D型］



❺ スロットルレバーを操作し、エンジン回転を上げます。

取扱いのポイント

- **主変速レバーは主クラッチレバーを《切》にして操作してください。**
- **主変速レバーが入り難い場合は無理な操作をせず主クラッチレバーを入れ、もう一度切ってから変速してください。**

2. 旋回のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆旋回するときは足元を確認してロータリーに巻込まれないようにしてください。

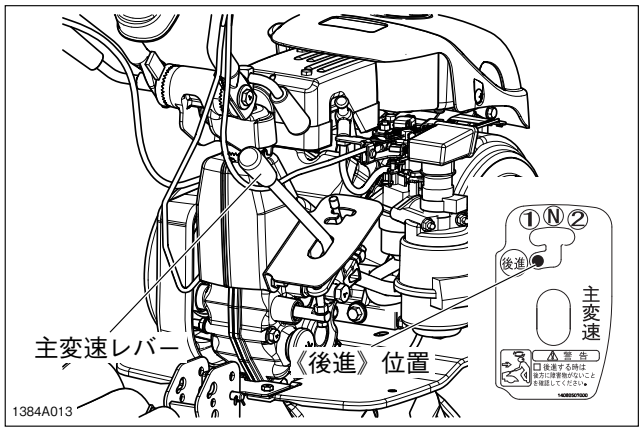
スロットルレバーを《**低速**》にしてハンドルを持上げて旋回してください。

3. 後進のしかた［R型］

⚠警告 傷害事故防止のために

◆後進するときは、スロットルレバーを《L》（低速）にして、背後の障害物の位置を確認しゆっくりと行ってください。《H》（高速）で後進すると、ハンドルが急激にはね上がり傷害事故を引起こすことがあります。

❶ スロットルレバーを《**L**》（**低速**）にします。
❷ 主クラッチレバーを《**切**》にします。
❸ 主変速レバーを《**後進**》の位置にします。



❹ 主クラッチレバーを徐々に《**入**》にします。
❺ 後進を停止するときは、主クラッチレバーを《**切**》にします。

取扱いのポイント

- **後進するときはハンドルがはね上がらないようにしっかりハンドルを握って後進してください。**

4. 停車のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

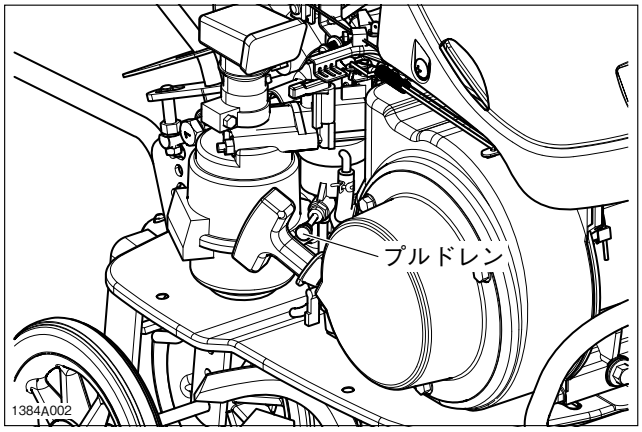
◆本機を止めるときは平坦な場所を選んでください。
◆燃えやすいものの近くには停車しないでください。
◆エンジンが熱いときはカバーをかけないでください。「火災」の原因になります。

❶ 主クラッチレバーを《**切**》にします。
❷ スロットルレバーを《**L**》（**低速**）にします。
❸ 主変速レバーを《**中立**》にします。［**R型**］
❹ エンジンスイッチを《**停止**》位置にしてエンジンを停止します。［**300E型**］

エンジンスイッチを押してエンジンを停止します。［**300A型**］

❺ 燃料コックレバーを《**止**》にします。

❻　長期間使用しないとき（１ヶ月以上）は燃料コックレバーを《止》にしてからプルドレンを引き気化器内の燃料を抜きます。その際、燃料は適切な容器で受けてください。



取扱いのポイント

- エンジンを停止するときは２～３分間低回転で運転してから停止してください。
- 本機（エンジン）が傾斜した状態でエンジンを停止したときは燃料コックレバーを《止》の位置にしてください。燃料がオーバーフローし、エンジンが始動困難になることがあります。
- エンジンを停止したあと長期間使用しないときは、リコイルスターターを引き、そのまま重くなった位置（圧縮位置）にしてください。
- 長期間使用しないときは燃料コックレバーを《止》にしてからプルドレンを引き気化器内の燃料を抜いてください。その際、燃料は適切な容器で受けてください。

4. 自動車への積み降ろし

・まわりに障害物のない平坦で硬い場所を選び、運転者は誘導する補助者と協力して次のことを守って、慎重に行います。

⚠警告　傷害事故防止のために

◆アユミ板が傾いたりしない平坦な場所を選んでください。
◆自動車は駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、変速を「後進」(MT車)、「P」(AT車）に入れタイヤに輪止めをしてください。
◆アユミ板は本機の質量に耐える強度、幅(車輪が外れない幅)、長さ（荷台高さの４倍以上）のある、すべり止め、フック付き、耕うん爪が引掛からないものを使用してください。
◆アユミ板は隙間のないものを使用してください。
◆アユミ板のフックは段差のないように、またずれないように荷台に確実にかけてください。
◆積み降ろしは２人作業で行なってください。また本機の周囲に人を近づけないでください。
◆積み降ろしはエンジンを停止し、主クラッチレバーを《切》にして、積込みは後進方向に引上げてください。また降ろすときは後進方向に引き降ろしてください。
◆アタッチメント（作業機）は取外して積み降ろしを行ってください。
◆自動車で本機を輸送中は急発進・急停止をやめ、カーブでは減速してください。本機の落下などの事故を起こすことがあります。

1．自動車・アユミ板について

❶　本機質量の積載を満たす自動車で荷台からはみ出さない車を使用します。

❷　自動車は駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、変速を「後進」(MT車)、「Ｐ」(AT車）に入れタイヤに輪止めをします。

❸　アユミ板は本機の質量に耐える強度、幅（車輪が外れない幅)、長さ（荷台高さの４倍以上）のあるすべり止め付き、フック付きのものを使用します。

❹　アユミ板は本機の車輪幅に合わせて自動車の荷台と平行に段差のないようにかけ、横ずれしたり、はずれたりしないか確認します。

アユミ板の基準

長さ	自動車の荷台高さの４倍以上
幅	30㎝以上
数量	２枚
強度	１枚が100kg以上の質量に耐えるもの
隙間が無くすべらない処理がしてあるもの	

・トラックへの積込み

❶　エンジンを停止して行います。

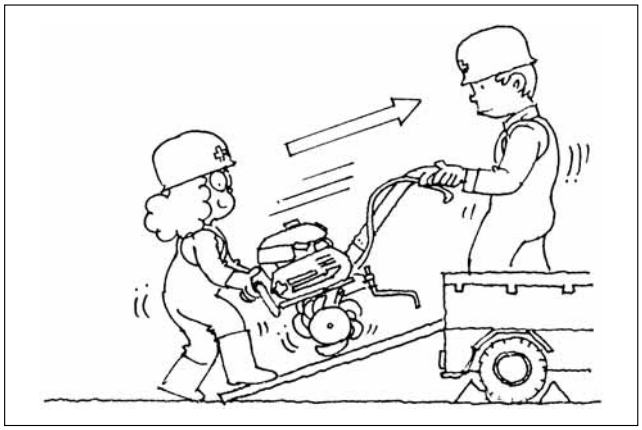
❷　積込みは後進方向で引き上げます。

❸　降ろすときは後進方向で引き降ろします。

❹　積込み後は耕うん爪部に輪止めをします。

❺　燃料コックレバーを《**止**》にします。

❻　本機は抵抗棒または移動尾輪を自動車の荷台の床に付けて、ロープで固定します。



2．乗用車での運搬

平坦な場所に自動車を止め、２人以上で積み降ろしを行ってください。

⚠危険　火災防止のために

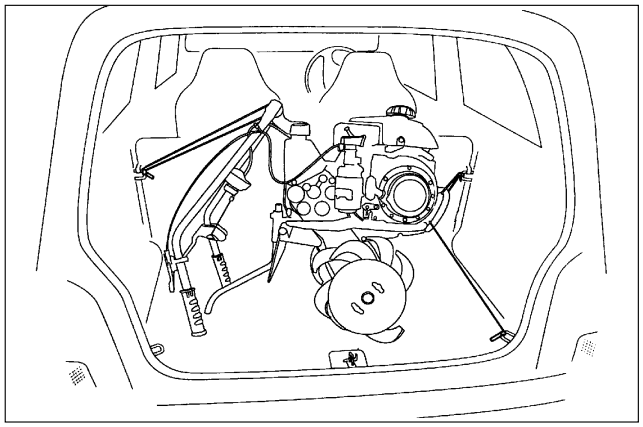
◆乗用車などの密閉空間になる状態で本機を運搬する場合は、燃料タンク内および気化器内の燃料を完全に抜き取ってから積込んでください。

⚠警告　傷害事故防止のために

◆平坦な場所を選んでください。

◆自動車は駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、変速を「後進」(MT車)、「Ｐ」(AT車)に入れ、タイヤに輪止めをしてください。

◆積み降ろしは２人以上で行ってください。



❶　エンジンを停止し、燃料タンク内の燃料を完全に抜きます。

❷　プルドレンを引き、気化器内の燃料を抜きます。

❸　燃料コックレバーを《**止**》にします。

❹　ハンドル上下調節レバーをゆるめて、ハンドルを折りたたみます。

❺　ハンドル上下調節レバーを確実に締付けます。

❻　この状態で取っ手とハンドルを持って持ち上げ乗用車に積込みます。

❼　本機は乗用車の床に安定した状態で積み、動かないようロープで固定します。

作業のしかた

1．作業前の準備

⚠警告　傷害事故防止のために

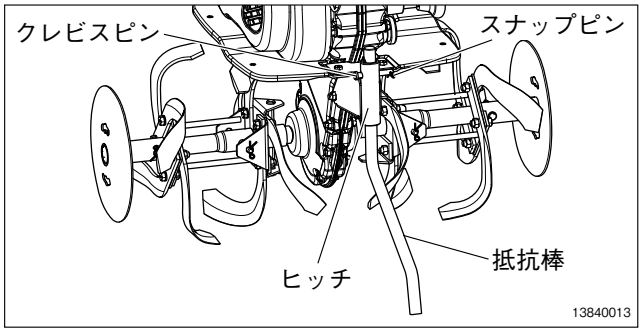
◆本機は、正転耕うんのため、ほ場のかたさにより本機が飛出すことがあるので注意してください。

1．抵抗棒の取付け

ヒッチ部は、抵抗棒・アタッチメント(作業機)などを取付ける部分です。

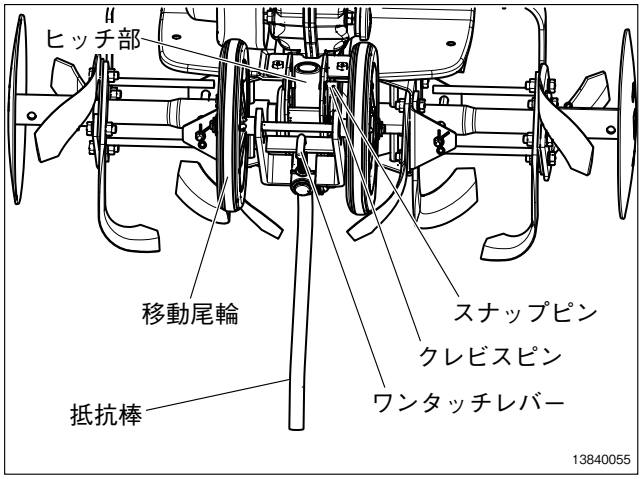
抵抗棒の取付けは、使用したい希望の高さにクレビスピンを差込み、スナップピンで固定します。

[移動尾輪なし仕様]



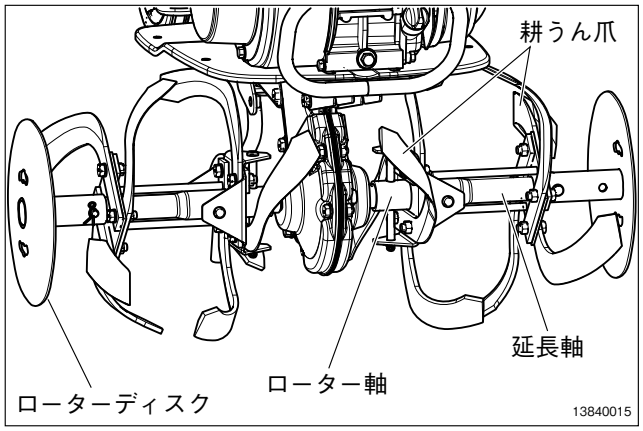
[移動尾輪付仕様]

移動尾輪と抵抗棒の切替えはワンタッチレバーを引いて回転させて行います。



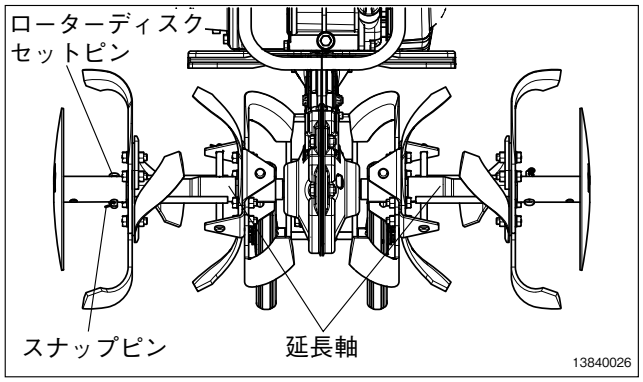
2．ローターの取付け

❶　耕うん爪を左右対称に、下図のように組付けます。



(図は、B型を示す。N型は延長軸とローター軸が一体)

❷　耕うん爪を組付けたローター軸と延長軸およびローターディスクを下図のように本機に取付けます。



・中耕車輪、カルチ車輪などをご使用の際は、本機ローターディスクのセットピンを使用します。

取扱いのポイント

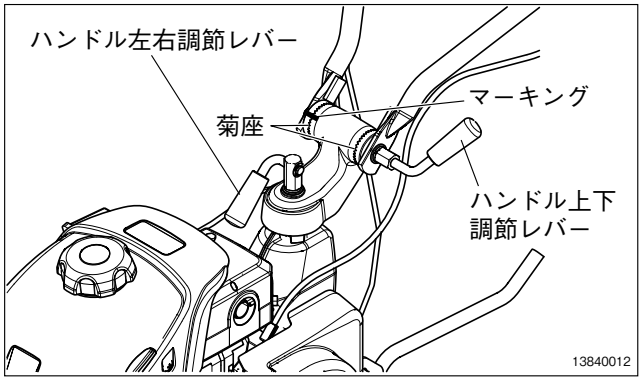
●ローターおよびローターアタッチメントを交換するために本機を大きく傾けるときは、エンジンを停止して燃料タンク内の燃料を空にし、燃料コックレバーを《止》にしてください。
燃料漏れの発生、または燃料がオーバーフローし、エンジンが始動困難になることがあります。

3. ハンドルの上下、左右調節

⚠警告 傷害事故防止のために

◆調節範囲以上にハンドルを上下すると各レバー操作時に傷害事故を引起こすことがあります。
◆ハンドルの上下、左右調節やハンドルを折り畳む際は、エンジンを停止して行なってください。

ハンドルは、使用する人の体格や作業の種類に合わせて使いやすい高さに調節します。
ハンドルの上下調節
・レバー側のハンドルとフレームに有る黄色のマーキングを合わせた位置がハンドルの標準高さ位置です。
・調節は、ハンドル上下調節レバーをゆるめて菊座をずらすことで行います。
・ハンドル上下調節レバーをゆるめたときは、確実に締付けます。
・ハンドル高さを調節するときはワイヤーなどの長さに余裕があることを確かめてください。
・作業しやすい高さは、ハンドルグリップを腰の高さに合わせるのが目安です。



ハンドルの左右調節［300A型］
・高さを調節した後、作業に応じて左右に調節できます。
・調節はハンドル左右調節レバーをゆるめ菊座をずらすことで行います。(左右各30°まで)
・ハンドル左右調節レバーをゆるめたときは、確実に締付けます。
・ハンドル左右を調節するときはワイヤーなどの長さに余裕があることを確かめてください。

4. 簡易うね立器の使いかた［U型］

・簡易うね立て作業時

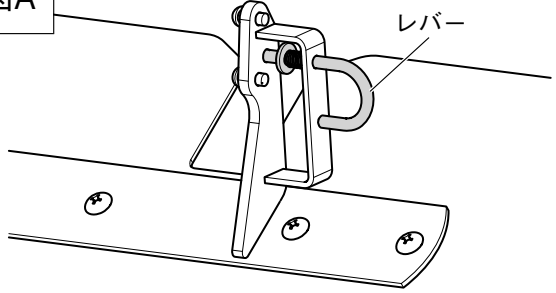
［簡易うね立器の取付け方］

❶ レバーを引張って回し、図Aの状態にします。
❷ リベットをヒッチ右側の穴に入れて下げます。（図B）
❸ レバーを引張って回し、図Cの状態にします。
移動尾輪は下げた位置で作業します。

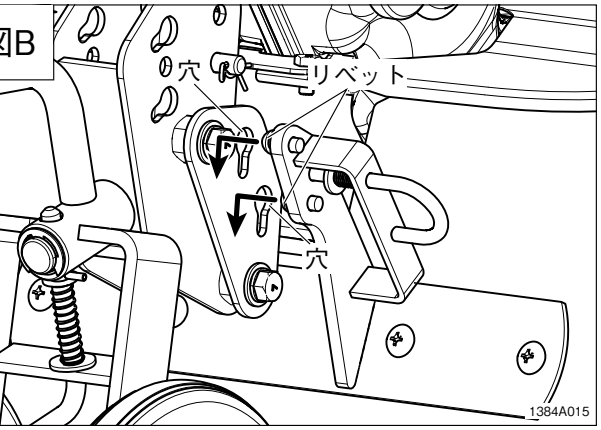
［簡易うね立器の取外し方］

❶ レバーを図Aの状態にします。
❷ 簡易うね立器を上げ、リベットを穴から外します。
❸ レバーを図Cの状態にします。

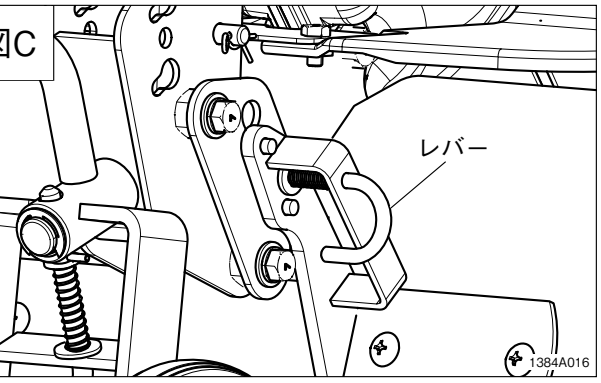
図A



図B



図C



・耕うん作業時、移動時（収納時）

［簡易うね立器の取付け方］

❶　レバーを図Ａの状態にします。

❷　リベットをヒッチ左側の穴に入れて、手前に引きながら下げます。（図Ｄ）

❸　レバーを図Ｅの状態にします。

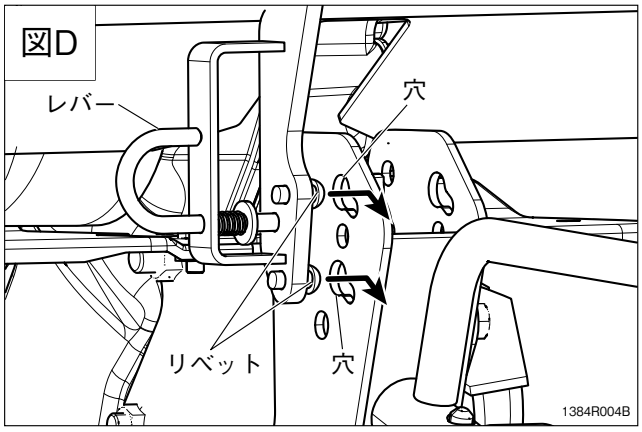
［簡易うね立器の取外し方］

❶　レバーを図Ａの状態にします。

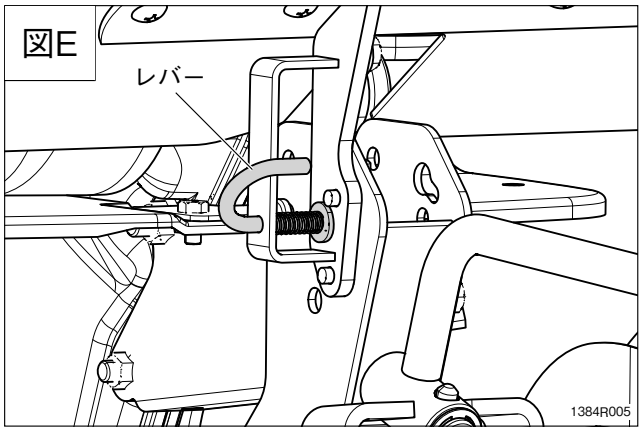
❷　簡易うね立器を斜め上に上げ、リベットを穴から外します。

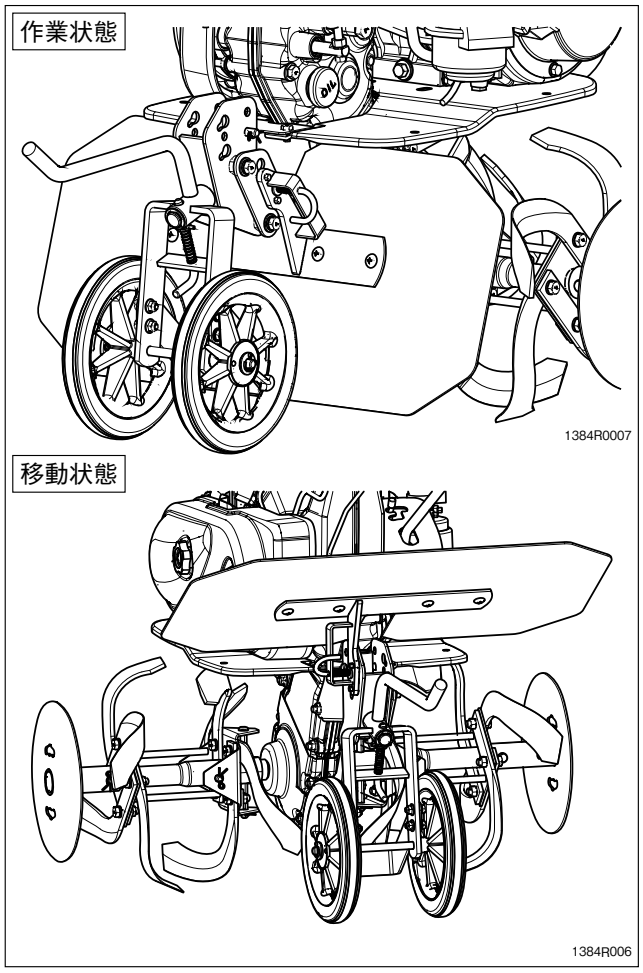
❸　レバーを図Ｅの状態にします。

図D



図E





取扱いのポイント

●簡易うね立作業時に後進する場合は、簡易うね立器が耕うん爪に巻き込まないように注意してください。

2. ほ場作業のしかた

1. ほ場への出入りのしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ほ場への出入りやあぜ越えは、《低速》であぜに直角に行なってください。
◆高あぜ・急傾斜・溝越えは耕うん爪のひっかからない、隙間が無くすべらない処理がしてあるアユミ板を使用してください。
◆アユミ板を使用するときは、エンジンを止めて引上げてください。
◆あぜがくずれないことを確認してから、ゆっくり行なってください。
◆後進するときは、後方に溝や障害物がないことを確認しスロットルレバーを《低速》にし行なってください。
◆夜間作業はしないでください。

❶ ほ場への出入りやあぜ越えは《**低速**》であぜに直角に行います。

❷ 高低差が大きいほ場への出入りはアユミ板を使用し､エンジンを止めて主クラッチレバーを《**切**》にして本機を引上げます。

2. 作業に適した速度の選びかた [300A型]

	主変速位置		ローター回転速度 (rpm)		適応作業
	R型以外	R 型	R型以外	R 型	
前進	低速	1	62	62	代かき・うね立
	高速	2	106	106	耕うん・中耕培土・代かきうね立
後進	−	後進	−	20	後進移動

ローター回転速度は、エンジン回転速度3600rpm時の数値です。

取扱いのポイント

- **後進でのバック耕うんなどの作業はしないでください。**
- **後進移動は、スロットルレバーを《低速》にして行います。**

3. 抵抗棒の使いかた

❶ 耕うん深さを深くしたいときは抵抗棒を下げて土の抵抗を大きくすることにより前進速度をおさえます。

❷ 耕うん深さを浅くしたいときは抵抗棒を上げて土の抵抗を少なくして作業速度を速くします。

❸ 培土器などのアタッチメント（作業機）を使用するときは抵抗棒を外してヒッチにアタッチメント（作業機）を取付けます。

※アタッチメント（作業機）は別売です。

4. 上手なほ場作業のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆後進するときは、後方に溝や障害物がないことを確認してから、スロットルレバーを《低速》にして後進してください。
◆耕うん爪の交換や、耕うん部の草の巻付きを取除くときは、エンジンを停止してから行なってください。
◆作業中はハンドルを支えるだけとし、無理に押付けないでください。(硬いほ場ではハンドルを押さえ飛び出しを防止します。)
◆本機を離れるときは、「平坦な場所」を選びエンジンを止め、主変速レバーを《1》[R型]、《低速》[R型以外]に入れておきます。

後進するときは、後方に障害物がないことを確かめます。障害物やハウスの壁と本機の間にはさまれないよう後方を確認し、スロットルレバーを《**低速**》にして行います。

耕うん作業をしていると草、ワラ、ビニールひもなどがからみつくことがあります。からみついたままにしておくとオイルシールなどをキズつけ、油漏れの原因になることがあります。

からみついた草・ワラ・ビニールひもなどはこまめに取除くようにして下さい。

手入れのしかた

⚠警告　傷害事故防止のために

◆点検・整備・掃除するときは平坦な場所に本機を置いて、エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。
◆エンジン回りの点検・整備はエンジンが冷えてから行なってください。
◆屋内でのエンジン始動は窓や戸を開けて換気をよくしてください。

⚠注意　傷害事故防止のために

◆取外したカバー類は全て取付けてからエンジンを始動してください。

1．定期点検整備

・正常な機能を発揮しいつでも安全な状態であるように「**定期点検整備表**」に従って定期的に点検し、必要により掃除・調整・整備を行います。

「**定期点検整備表**」（点検○、交換●）

分類	点検・整備項目	整備内容	点検間隔				参照ページ
			シーズン前	30時間毎	50時間毎	格納時	備考
エンジン関係	エンジンオイル	点検・補給・交換	○（毎日作業前）	●（初回のみ）	●	○	22
	エアクリーナーエレメント・オイル	点検・掃除・補給	○（毎日作業前）			○	23、25
	燃料ストレーナー	点検・掃除	○（毎日作業前）			○	25
	燃料ホースの劣化と燃料漏れ	点検・交換	○（毎日作業前）			○	27
	燃料タンクの燃料	補給・抜取り	○（毎日作業前）			抜取り	22
	気化器の燃料	抜取り				抜取り	31
	点火プラグ	点検・掃除・交換			○	○	26
	エンジン取付ボルト	点検・増締	○			○	—
本機関係	ミッションケースオイル	点検・補給・交換	○	●（初回のみ）	●	○	23
	各操作レバー軸・テンションプーリー回動支点・ワイヤーの注油	注油	○（毎日作業前）			注油	24
	給脂箇所	給脂	○（毎日作業前）			給脂	24
	各操作レバーの作動	点検	○（毎日作業前）			○	—
	主クラッチ	点検・調整	○（毎日作業前）		○	○	28、29
	Vベルトの伸び	点検・調整	○		○	○	28
	ボルト・ナットのゆるみ	点検	○			○	29
	耕うん爪の摩耗・取付け	点検	○（毎日作業前）			○	15

取扱いのポイント

●本機または､部品などを廃棄するときは｢お買いあげの販売店またはお近くの当社営業所｣にご相談ください。
●使用済み廃棄物の処理について
■廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されます。
■廃棄物を処理するときは
○本機から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
○地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
○廃油、燃料、フィルター、ゴム類、その他の有害物を廃棄、または処分するときは「お買いあげの販売店またはお近くの当社営業所」または産業廃棄物処理業者などに相談して所定の規則に従って処理してください。

2. 給油・注油のしかた

・工場出荷時は各給油箇所にオイルが入れてありませんので、給油表に従って給油してください。
・オイルの点検・交換は**「運転前の点検表」**（8ページ参照）および**「定期点検整備表」**（20ページ参照）に従って行います。
・オイルの点検・交換は本機を平坦な場所に置いて行います。

取扱いのポイント

- **各給油箇所には指定オイルを規定量給油してください。**
- **廃油など汚れたオイルを注油すると故障の原因となりますので使用しないでください。**
- **交換したオイルを廃却するときは「お買いあげの販売店またはお近くの当社営業所」または、産業廃棄物処理業者などに相談して所定の規則に従って処理してください。**

⚠危険 ヤケドや火災防止のために

◆燃料補給時は火気を近づけないでください。
◆給油・注油・点検するときは本機を平坦な場所に置き、エンジンを停止し、各部の動きが止まってから行なってください。
◆エンジン回転中やエンジンが熱いときは給油・注油しないでください。またオイル交換もしないでください。
◆損傷や劣化した燃料ホースは交換してください。燃料漏れがあると火災の原因となります。
◆こぼれた燃料はきれいにふきとってください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆回転部・摺動部から異音が発生するときはエンジンを停止し、各部の動きが止まってから注油してください。

⚠注意 ヤケドや傷害事故防止のために

◆マフラー、マフラー排気口に触れないでください。

「給油・注油・給脂表」

	No.	給油・注油・給脂箇所	種　類	分　類 API サービス分類	分　類 SAE 粘度番号	容　量（L）	備　考
給油	①	燃料タンク	自動車用無鉛ガソリン	－	－	1.2	・始業時点検（必要量補給）
給油	②	エンジン	純正油またはエンジンオイル	SE級以上（マルチSTOUオイル可）	10W－30	0.4	・初回30時間または1年後のどちらか早い方 ・以降50時間毎または2年毎のどちらか早い方
給油	③	ミッションケース	純正油またはギヤオイル	GL－4級以上	80W	0.9	・初回30時間または1年後のどちらか早い方 ・以降50時間毎または2年毎のどちらか早い方
給油	④	エアクリーナー（オイルバス式）	純正油またはエンジンオイル	SE級以上（マルチSTOUオイル可）	10W－30	オイルレベルまで	・始業時点検
注油	⑤	各操作レバー軸､テンションプーリー回動支点、ワイヤー、尾輪内径部	純正油またはエンジンオイル	SE級以上（マルチSTOUオイル可）	10W－30	適　量	
給脂	⑥	変速カム部［R型］	リチウムグリス	－	－	適　量	

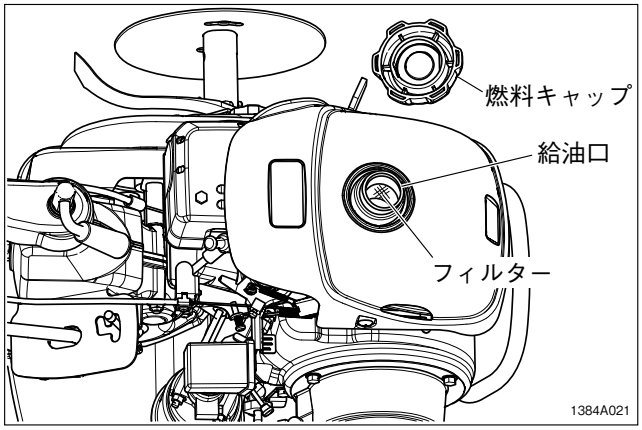
・リチウムグリスはJIS１種０号を使用する。

1．燃料の補給

エンジンが水平になる場所に停車し燃料キャップを外して給油口より補給します。

・燃料……自動車用無鉛ガソリン

・タンク容量……1.2Ｌ



取扱いのポイント

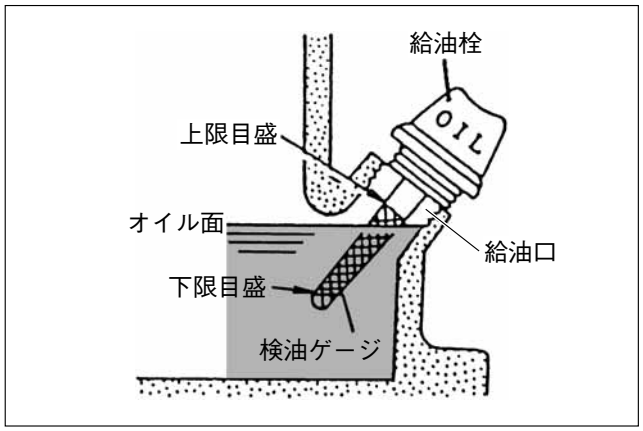
- **燃料はフィルター内側のレベルライン（赤印）以上供給しないでください。**
- **燃料の供給はフィルターを使用しゴミなどが混入しないようにしてください。**
- **燃料キャップを締め付ける際は、破損のおそれがありますので締め過ぎないようにしてください。**

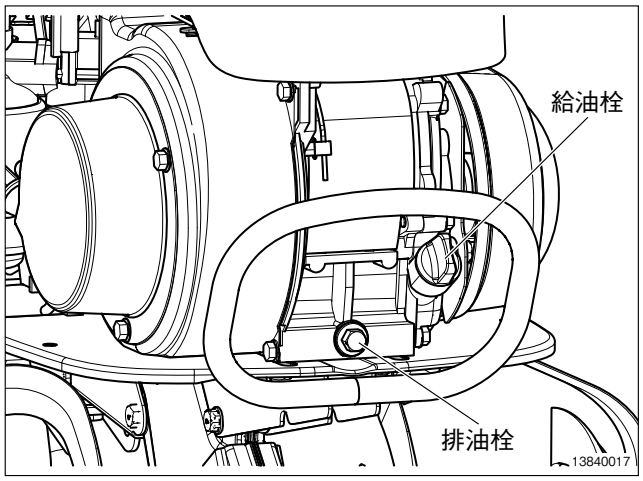
2．エンジンオイルの点検・交換

❶ **点検**……エンジンが水平になる場所に停車し、給油栓を外して検油ゲージ面をきれいにふき取ってから差込みます。(ねじ込まない)

取扱いのポイント

- **検油ゲージの上限と下限の間にオイル面があるか確認し、不足している場合は補給します。**





❷ **交換**……エンジンが水平になる場所に停車し、排油栓を外しオイルを抜きます。その際、オイルは適切な容器で受けてください。オイルが完全に抜けたら排油栓を確実に締め、新しいオイルを給油口から検油ゲージの「**上限**」まで給油します。

・オイル…… **純正油** またはガソリンエンジン用オイル
API・SE級以上
（マルチSTOUオイル可）
SAE・10W－30

・オイル量……0.4Ｌ

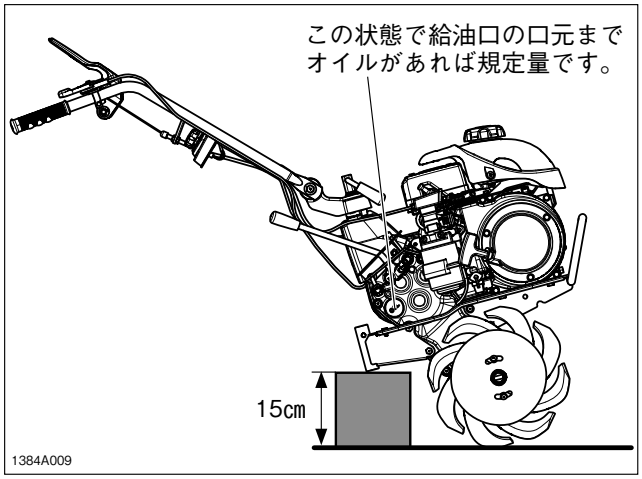
取扱いのポイント

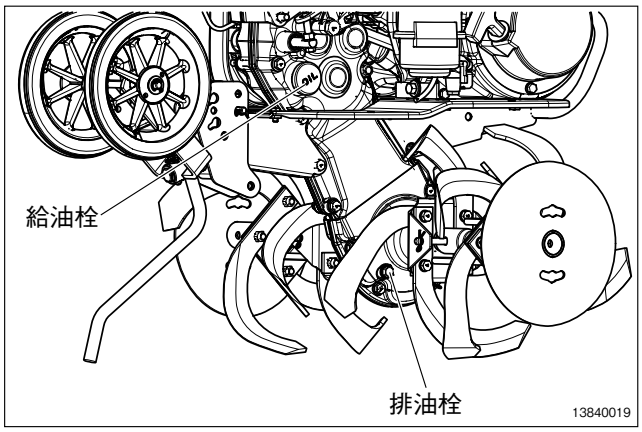
- **オイル交換後は、アイドリング回転で５分間程度運転しエンジン内部にオイルをゆきわたらせてください。**
- **純正油 ……スーパーマルチSTOU（ストー）オイル**

3．ミッションケースのオイルの点検・交換

❶ **点検**……給油栓を外し本機を下図の姿勢に傾けたとき、給油口の口元までオイルがあるか調べます。

・不足している場合は給油口の口元まで補給します。





❷ **交換**……排油栓を外し排油口からオイルを抜きます。その際、オイルは適切な容器で受けてください。オイルが完全に抜けたら排油栓を確実に締付け、本機を上図の姿勢に傾けた状態で、新しいオイルを給油口から給油口の口元まで給油します。

・オイル…… (純正油) またはギヤオイル
API・GL－４級以上
SAE・80W

・オイル量…0.9Ｌ

取扱いのポイント

- **給油量を量って給油する場合は、本機を傾けて給油する必要はありません。**
- (純正油) **……スーパーマルチSTOU（ストー）オイル**
スーパーマルチGBオイル

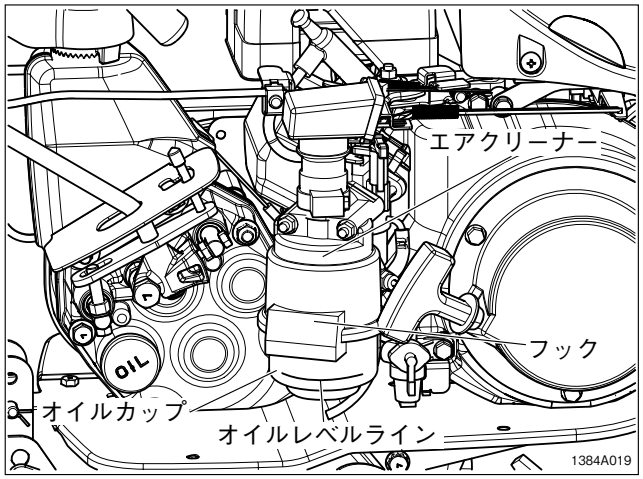
4．エアクリーナーのオイル補給

❶ **補給**……オイルカップのオイルレベルライン（規定量位置）までオイルがあるか確認します。

・不足している場合はフックを倒してオイルカップを外し、オイルレベルライン（規定量位置）までオイルを補給します。

・オイル…… (純正油) または
ガソリンエンジン用オイル
API・SE級以上
（マルチSTOUオイル可）
SAE・10W－30

・オイル量…オイルレベルライン位置



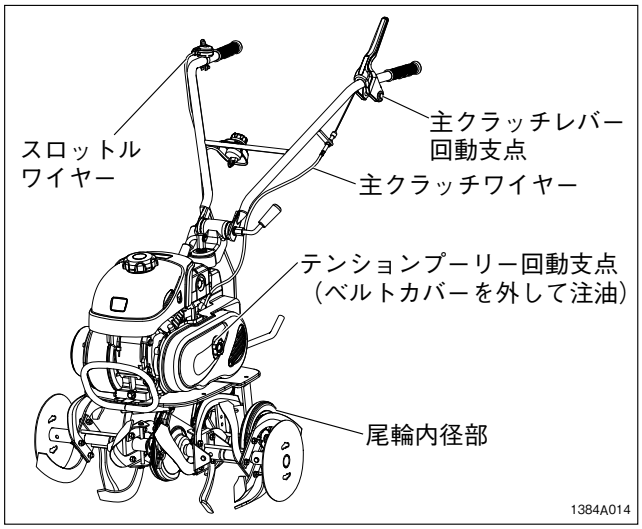
5．注油・給脂箇所

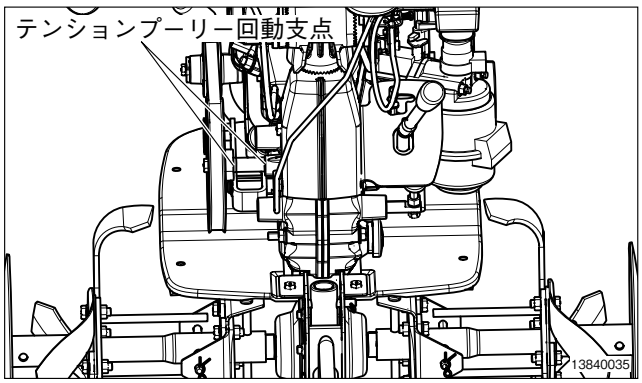
❶ **注油**……油差しで注油します。

・オイル…… (**純正油**) または
ガソリンエンジン用オイル
API・SE級以上（マルチSTOUオイル可）、SAE・10W－30

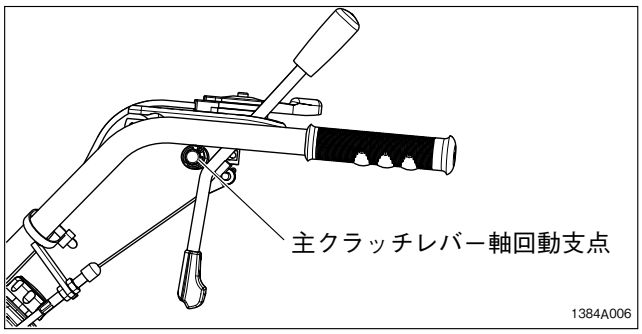
・オイル量…適量注油

・注油箇所…ワイヤー類・主クラッチレバー軸回動支点・主変速レバー軸回動支点・テンションプーリー回動支点・尾輪内径部





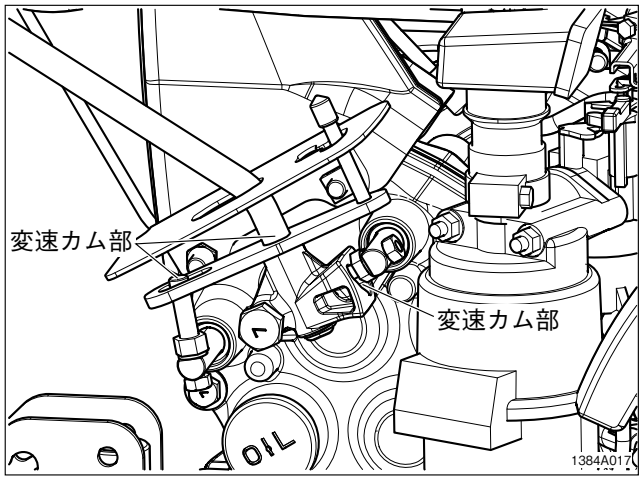
［D型］



サビやすい箇所（ローター軸など）にも注油すると本機をきれいな状態で維持できます。

❷ **給脂**……グリスを適量給脂します。

［R型］



3. 各部の点検と掃除のしかた

⚠危険 火災防止のために

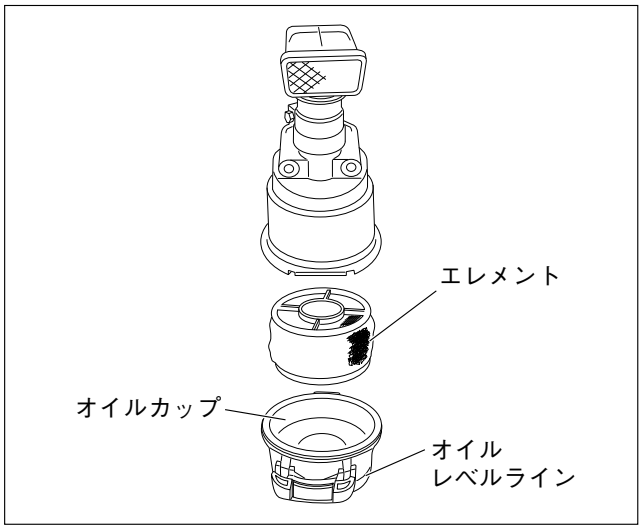
◆エレメント、ネットの洗浄にガソリンは使用しないでください。
◆作業時は火気を近づけないでください。
◆換気の良い場所で行なってください。

1. エアクリーナーの掃除

エアクリーナーエレメントを汚れたままで使用すると､エンジンの内部損耗や出力低下をまねきます。

❶ オイルが不足しているときはオイルカップのオイルレベルラインまで補給します。

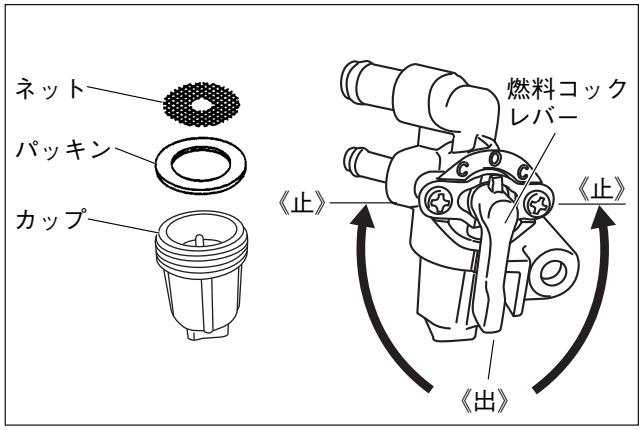
❷ オイルが汚れているときはオイルカップとエレメントを外して灯油で洗浄し、エレメントは灯油を振切って取付けます。オイルカップにエンジンオイルをオイルレベルラインまで入れます。



2. 燃料ストレーナーの掃除

ストレーナーカップに水またはゴミがたまっていないか点検します。

燃料コックレバーを《止》にし、カップとネットを取外しカップ内の沈殿物を除去し、ネットも清掃します。



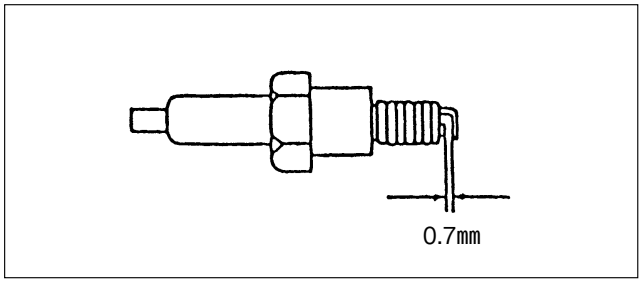
3．点火プラグの点検と掃除

⚠警告　傷害事故防止のために

◆エンジン回りの点検・整備は、エンジンが冷えてから行なってください。
◆リコイルスターターを引くときにプラグキャップや高圧コードに触れないでください。触れると「感電」することがあります。

❶　プラグキャップを外して付属のボックスレンチで点火プラグを外します。

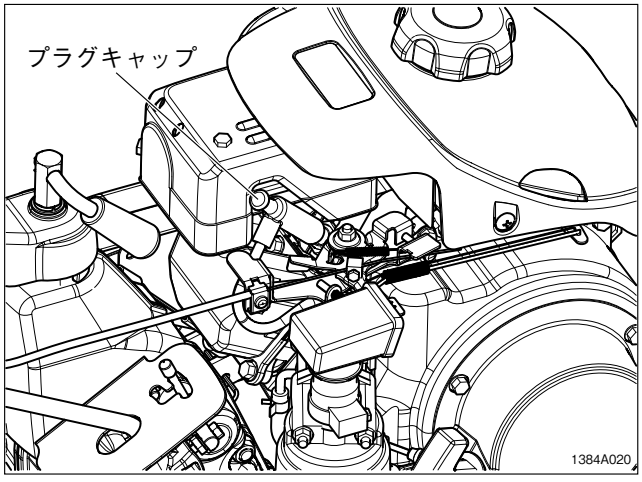
❷　点火プラグについているカーボンを取除き、電極スキマが「0.7㎜」になるように点検調整します。



❸　電極部が損耗または破損しているときは新しい点火プラグと交換します。

❹　点火プラグを取付け後、プラグキャップを確実に差込みます。

・使用点火プラグ…NGK－BP6HS

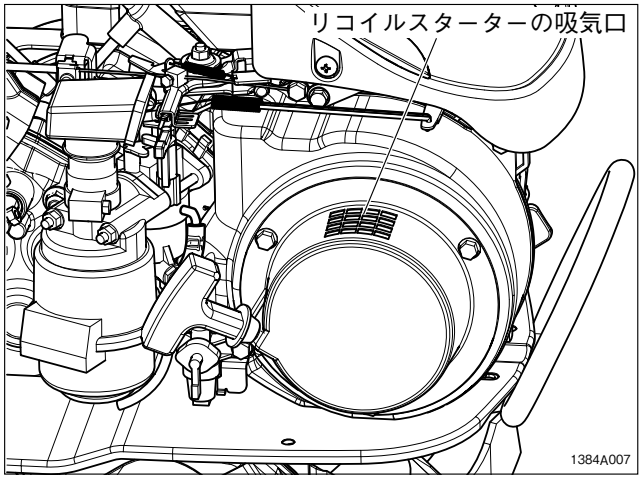


取扱いのポイント

- プラグキャップを外したままでリコイルスターターを引かないでください。
- 点火プラグをエンジン側にアースしないでリコイルスターターを引かないでください。エンジンの電気回路の故障になります。アースして点検してください。
- 点火プラグの電極スキマを調整してもエンジンが始動しないときは新しい点火プラグと交換してください。

4. リコイルスターター部の掃除

リコイルスターター部の吸気口はきれいに掃除しておきます。ワラクズ、ゴミなどの付着があるとエンジンの過熱や出力低下の原因になります。（ここからエンジンの冷却風が吸込まれます。）



取扱いのポイント

●代かき作業などをするときは泥土の付着防止のために「延長フェンダー」を取付けてください。（アタッチメントで準備しています。）

5. 燃料ホースの点検

⚠危険 傷害事故防止のために

◆燃料ホースの損傷、外皮のはがれおよび継ぎ部より燃料が漏れてないか確認し、漏れている場合は火災の原因となりますので交換してください。

燃料ホースの劣化や傷による燃料漏れがないか、また締付バンドがゆるんでいないか点検します。

傷んでいなくても２年ごとに交換します。

4. 各部の点検と調整のしかた

各部は出荷のときに正しく調整されていますが使用による摩耗や伸びが生じてくることがありますので再調整を行い、損耗の限度をこえた部品は交換し、正しく使用できる状態にしておきます。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整は本機を平坦な場所に置きエンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。
◆調整後は異常なく作動することを試運転で確認してください。

1. 主クラッチの調整

⚠警告 傷害事故防止のために

◆主クラッチの調整はエンジンを停止して行なってください。
◆エンジンを始動してベルトの作動、停止を確認するときは他の人や物を遠ざけ、エンジンプーリーやベルトに手や足を出さないでください。
◆ベルトを張りすぎないでください。ベルトを張りすぎると主クラッチレバーが切れず、事故を起こす恐れがあります。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆調整後はベルトカバーを取付けてください。

主クラッチレバーはベルトテンション式です。（レバーから手を放せば《**切**》になります。）

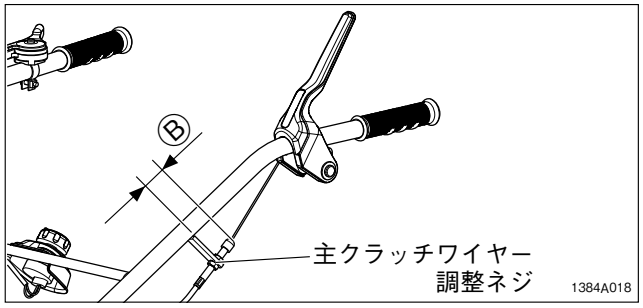
主クラッチレバーの調整が悪く、ゆるいとVベルトのスリップにより作業能率および性能が低下し、Vベルトの損傷も早くなります。また張りすぎると主クラッチが切れず、本機が停止できなくなることがあります。

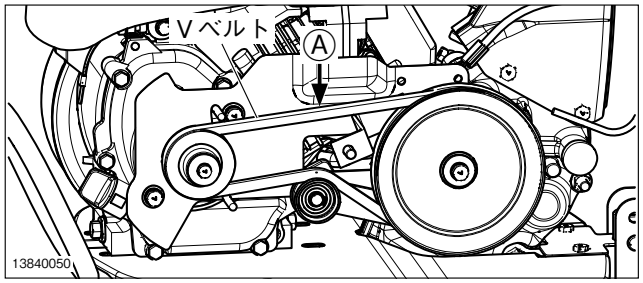
「調整方法」

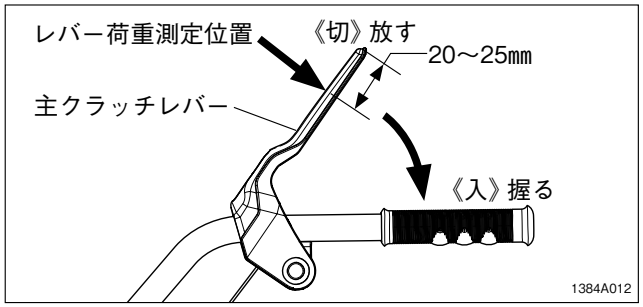
❶ エンジンを停止しベルトカバーを外します。

❷ 主クラッチレバーを《**入**》にした状態でVベルトの上側中央部（Ⓐ部）を指で押さえ「**タワミ量**」が 10～15㎜ になるよう主クラッチワイヤー調整ネジで調整します。主クラッチレバーの操作荷重で調整するときは主クラッチレバー「**測定位置**」での操作荷重が下記の値になるように主クラッチワイヤー調整ネジで調整します。（Ⓑ寸法を長くすると操作荷重が小さくなり、短くすると大きくなります。）

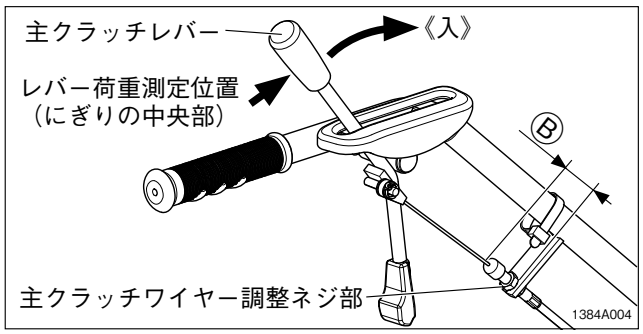
［**D型以外**）］：17～20N {1.7～2.0kgf}
［**D型**］　　：22～25N {2.2～2.5kgf}







［**D型**］



❸ 主クラッチレバーを《切》にして主変速レバーを《N》(中立)にし([R型])エンジンを始動します。

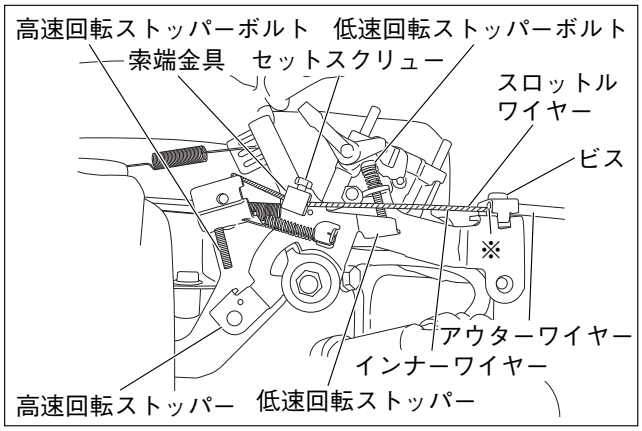
主クラッチレバーを《入》にした後《切》にして《切》の位置でVベルトが完全に静止すれば調整は完了です。

Vベルトが完全に静止しない場合は調整ネジを再調整します。調整が完了したらエンジンを停止してベルトカバーを取付けます。

2. スロットルワイヤーの調整

スロットルワイヤー先端部のセット位置が悪いとスロットルレバーを《L》(低速) 位置にしてもエンジンのアイドリングが高かったり、《H》(高速) 位置にしても最高回転に達しない場合があります。

❶ 点検……(1) スロットルレバーをいっぱい《L》(低速) にした位置で低速回転ストッパーが低速回転ストッパーボルトに当たっていますか。



❷ 調整……(1) アウターワイヤー先端を取付金具の※印部に押しあてビスで固定します。

(2) インナーワイヤーを索端金具に差込み、セットスクリューで固定します。

❸ エンジンを始動し、スロットルレバーを操作して《L》(低速) 位置にしたとき、低速回転ストッパーが低速回転ストッパーボルトにあたり、《H》(高速) 位置にしたとき、高速回転ストッパーが高速回転ストッパーボルトにあたることを確認します。

3. ボルト・ナットの点検

・エンジン・フレーム・ハンドル・耕うん爪などの各部取付ボルト・ナットの締付けを点検します。

長期格納のしかた

⚠警告　火災や傷害事故防止のために

◆回転部に付着した泥・ゴミ・ワラクズを取除くときはエンジンを停止し、各部の回転が停止してから行なってください。

◆高温部が冷えてからエンジン・マフラー・燃料タンク周囲のワラクズなどを取除いてください。火災の原因になることがあります。

⚠注意　傷害事故防止のために

◆取外したカバー類はすべて取付けてください。

シーズンが終わったら「**定期点検整備表**」（20ページ参照）の「**格納時**」の項目について点検・整備および掃除を行い、更に次の処置をします。

1．本機の掃除と洗浄

❶　泥・ワラクズ・草などを取除き汚れをきれいに水洗いして乾いた布でふき取ります。

❷　塗装がはげた箇所は補修塗料を塗り、本機のサビやすい箇所にはグリスかオイルを塗布します。

❸　回転部・しゅう動部・ワイヤー類には注油し、サビないようにします。

❹　サビやすい箇所（ローター軸など）に注油します。

取扱いのポイント

●エンジンが熱いときは水をかけないでください。

●エンジンまわりの電気配線部には水をかけないでください。エンジン始動不良の原因となります。

●洗浄時の注意

高圧洗浄機の使用方法を誤ると人にケガをさせたり、本機を破損・損傷・故障させることがありますので、高圧洗浄機の取扱説明書・ラベルに従って正しく使用してください。

⚠警告　ヤケド、火災、傷害事故防止のために

本機を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし、2m以上離して洗浄してください。もし直射にしたり、不適切に近距離から洗浄すると

1．電気配線部被覆の損傷・断線により火災を引き起こすおそれがあります。

2．油圧ホース破損により高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。

3．本機の破損・損傷・故障の原因になります。

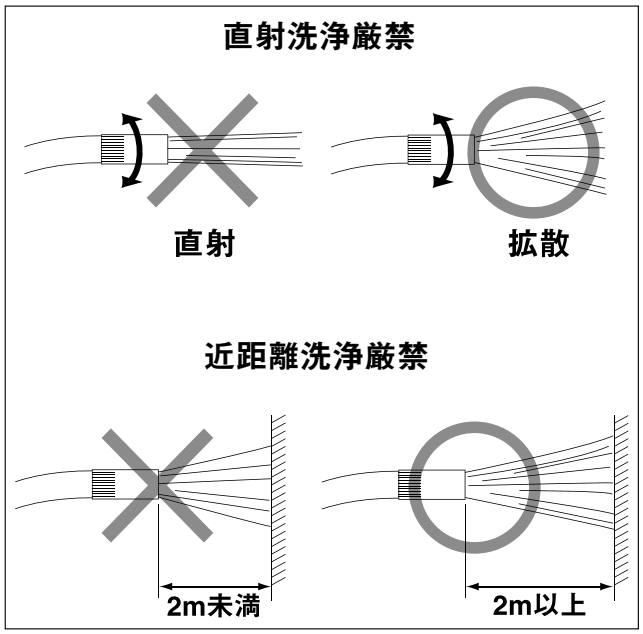
例）

（1）シール・ラベルの剥がれ

（2）電装部品、エンジン・ミッションケースなどへの水の浸入による故障

（3）タイヤ、オイルシールなどのゴム類、化粧カバーなどの樹脂部品、ガラスなどの破損

（4）塗装、メッキ面の皮膜剥がれ



2. エンジンの手入れ

⚠危険 ヤケドや火災防止のために

◆燃料取扱い時は火気を近づけないでください。
◆エンジン回転中やエンジンが熱いときは給油しないでください。またオイル交換もしないでください。
◆損傷や劣化した燃料ホースは交換してください。燃料漏れがあると火災の原因となります。
◆こぼれた燃料はきれいにふきとってください。

⚠注意 ヤケドや傷害事故防止のために

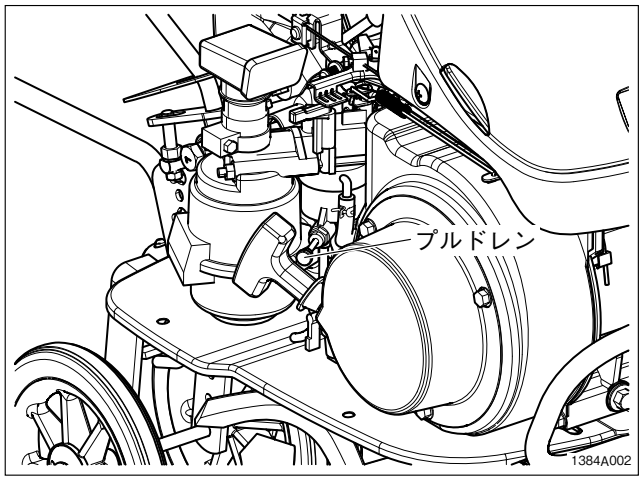
◆マフラー、マフラー排気口に触れないでください。

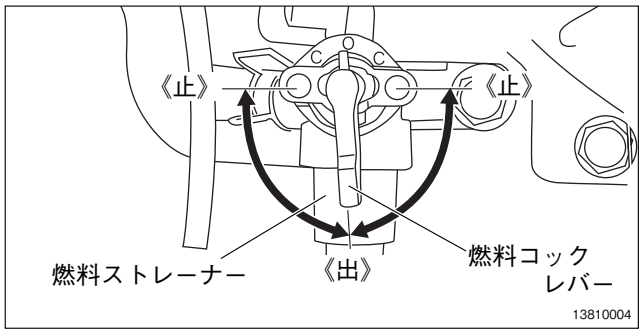
❶ エンジンオイルを交換します。
オイル交換後はアイドリング回転で５分間程度運転し、各部にオイルをゆきわたらせてから停止します。

❷ エンジンコントロールレバーはいっぱい《**L**》（**低速**）にしておきます。

❸ 本機を１ヶ月以上使用しないときは燃料変質による始動不良または運転不調にならないように、燃料タンク・燃料ストレーナー・気化器の燃料を抜きます。その際、燃料は適切な容器で受けてください。

⑴ 燃料タンクの燃料を給油ポンプで抜き、残量分は燃料ストレーナーカップを外して抜きます。
⑵ 気化器のプルドレンを引き気化器内の燃料を抜取ります。
⑶ 燃料を抜き終わったら燃料ストレーナーカップを取付け､燃料コックレバーを《**止**》にします。
⑷ 燃料を抜くために外したりゆるめた箇所は元の状態に戻しておきます。





取扱いのポイント

- **気化器はむやみにいじらないでください。**
- **長期間（１ヶ月以上）使用しないときは燃料腐食で気化器内部を腐食させるので、燃料タンクおよび燃料ストレーナーの燃料を抜いた後、気化器のプルドレンを引き燃料を抜取ってください。その際、燃料は適切な容器で受けてください。**
- **点火プラグを外しエンジンスイッチが《始動》位置でリコイルスターターを引くと、エンジンの電気回路が故障しますのでやめてください。**

3. 格　納

⚠警告 火災防止のために

◆本機にカバーをかけるときはエンジンが冷えてから行なってください。
エンジンが熱いときにカバーをかけると火災になることがあります。

本機の掃除・点検・整備を終えたら風通しのよい乾燥した平坦な屋内を選び、カバーをかけて保管します。

・主クラッチレバーは《**切**》にしてＶベルトの張りを解除しておきます。

取扱いのポイント

●サビの発生を防止するため塩分の強い貯蔵物や肥料とおなじ場所に格納するのはさけてください。

4. 再使用するときは

格納後はじめて使用するときには、定期点検整備表のシーズン前点検を行った後に運転します。
（20ページ参照）

不調時の処置

・不調が発生したらすぐにその原因を調べて処置をし、故障を大きくしないようにします。
・原因がわからない場合や、調整しても再発するときは**「お買いあげの販売店またはお近くの当社営業所」**に相談し点検を受けてください。
・そのときは不調の状況とあわせて**「商品名（区分）」・「機械番号(製造番号)」・「エンジン番号」**をお知らせください。（1ページ参照）

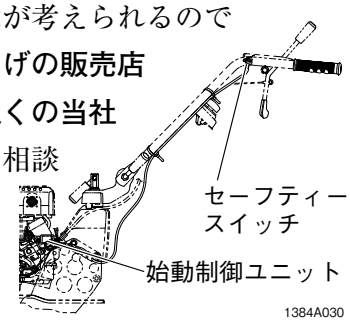
⚠警告 火災や傷害事故防止のために

◆作業中に不調が発生した場合は本機を広い平坦な場所に停車し、エンジンを止め、各部の動きが止まってから行なってください。
◆エンジン回りの点検・整備は、エンジンが冷えてから行なってください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆取外したカバーはすべて取付けてからエンジンを始動してください。

1．エンジン部

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
エンジンが始動しない。または始動困難	❶ 燃料が入っていない。	・燃料を補給します。	22
	❷ 燃料コックレバーが《**止**》の位置になっていないか。	・燃料コックレバーを《**出**》の位置にします。	4、9
	❸ スロットルレバーの位置はよいか。	・スロットルレバーを始動位置にします。	4
	❹ 点火プラグが湿っている。	・チョークを《**閉**》のままにしすぎると、点火プラグが湿りがちとなるので点火プラグを外しよく乾燥させます。	26
	❺ 点火プラグの火花が出ない。または出ても弱い。	・点火プラグの電極スキマを調整します。 ・点火プラグのカーボンを掃除します。 ・点火プラグを新品と交換します。 使用点火プラグ　NGK　BP6HS	26
	❻ チョークレバーが《**開**》になっている。	・チョークレバーを《**閉**》にし、エンジン始動後徐々に戻します。	4
	❼ エンジンスイッチが《**停止**》位置になっている。	・エンジンスイッチを《**始動**》位置にします。	10
	❽ 始動制御ユニット、セーフティースイッチが故障している［D型］	・点火プラグ点検時火花が出ないときは、始動制御ユニット、セーフティースイッチの故障が考えられるので**「お買いあげの販売店またはお近くの当社営業所」**に相談してください。  	ー

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
エンジンの出力不足および自然停止	❶　エアクリーナーにゴミがつまっている。	・エレメントおよびオイルカップを灯油で洗浄し、エレメントから点滴しない程度に振切り、エンジンオイルをオイルカップのオイルレベルラインまで入れます。	25
	❷　リコイルスターターの吸気口がつまっている。	・きれいに掃除をします。	27
	❸　エンジンオイルが減っている。	・エンジンオイルを規定量補充します。 ・エンジンオイルが古くなっているときは新しいオイルと交換します。	22
	❹　エンジンの圧縮がない。	・ピストンリングの摩耗などが考えられるので**「お買いあげの販売店またはお近くの当社営業所」**に相談してください。	―
	❺　エンジンの冷却フィンに泥などがつまっている。	・きれいに掃除をします。	―
	❻　エンジンの回転が十分あがらない。	・スロットルレバー・ワイヤー取付部にゆるみはないか点検します。	29

2. 本　機

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
各部に振動が多い	❶　エンジンが振動している。	・エンジン取付ボルトを点検し、ゆるんでいれば増締めします。	―
	❷　ハンドルが振動している。	・ハンドル上下調節レバー、ハンドル左右調節レバーを点検し、ゆるんでいれば締込みます	16
主クラッチレバーを操作しても走行しない	❶　Vベルトが伸びてスリップしている。	・Vベルトの張り調整をします。	28
	❷　主クラッチワイヤーが伸びている。	・主クラッチワイヤー調整をします。	

付　　表

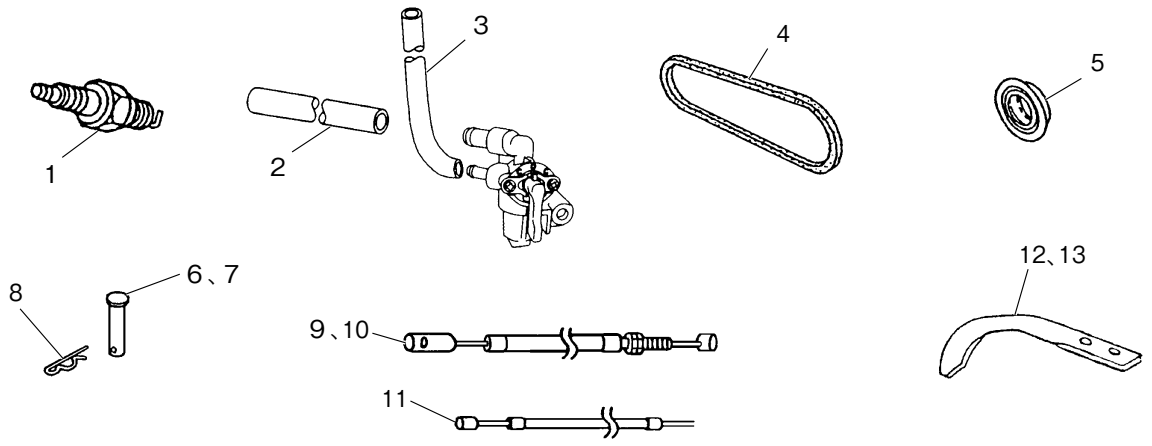
1．主要諸元

商品名		三菱MM300E			三菱MM300A				
型式名		MM300							
区分		N	NU	ND	B	BU	RB	RBU	BD
本機寸法《》内は格納本機寸法	全長（mm）	1100《845》			1110《840》				
	全幅（mm）	600《600》			660《660》				
	全高（mm）	1080《660》		1045《660》	1065《660》				1030《660》
本機質量（kg）		38	40	39	41	42		43	41
エンジン	型式名	GB101PN							
	種類	空冷４サイクルOHV式ガソリンエンジン							
	総排気量（L{cc}）	0.098 {98}							
	出力/回転速度(kW{PS}/rpm)《　》内は最大出力	1.6 {2.2} /3600《2.2 {3.0}》							
	燃料タンク容量（L）	1.2							
	始動方式	リコイル式							
走行部	主クラッチ形式	ベルトテンション式（デッドマン式）		ベルトテンション式（リターンクラッチ式）	ベルトテンション式（デッドマン式）				ベルトテンション式（リターンクラッチ式）
	走行変速段数（段）	前進１段			前進２段		前進２段後進１段		前進2段
	車軸回転速度（rpm）前進	106			62・106				
	車軸回転速度（rpm）後進	－					20		－
	車軸の形状･寸法（mm）	丸軸・φ20							
耕うん幅（mm）		540			320/600				

※車軸回転速度は、エンジン回転速度3600rpm時の数値です。

※この主要諸元は、改良のため予告なく変更することがあります。

2. 主な消耗部品



No.	部品番号	部品名称	個数		備考
			[300E型]	[300A型]	
1	FA21 273	点火プラグ	1	1	BP6HS
2	P051 Y08 X350	フューエルホース	1	1	タンク～ストレーナー
3	KF70 058AA	フューエルホース	1	1	ストレーナー～気化器
4	1408 0205 000	Vベルト	1	1	
5	2740 3624 100	オイルシール	2	2	車軸用
6	1402 1259 001	クレビスピン	2	4	L＝110㎜［N型］、［B型］
7	0562 1108 040	クレビスピン	2	2	L＝40㎜［N型］、［B型］
8	0522 0108 000	スナップピン	4	6	［N型］、［B型］
9	1408 2103 001	クラッチワイヤー	1	1	主クラッチ用［D型以外］
10	1384 7823 002	クラッチワイヤー	1	1	主クラッチ用［D型］
11	4363 0702 000	ワイヤー	1	1	スロットル用
12	1416 1266 000	ナタローター爪（右）	8	8	［N型］、［B型］
13	1416 1267 000	ナタローター爪（左）	8	8	［N型］、［B型］

・ご用命のときは、「部品名称」と「部品番号」をお知らせください。

3. 潤滑油について

・オイルは三菱農業機械純正油をお奨めします。

1. エンジンオイル

メ　　ー　　カ		商　　品　　名
三菱農業機械純正油		スーパーマルチＳＴＯＵ（ストー）オイル (SAE10W－30､SD/CD/GL－4)
全　　農	ガソリン用	JA－OIL SL 10W－30
JX日鉱日石エネルギー	ガソリン用	FINEモーターオイル 10W－30

2. ギヤオイル

メーカ名	商　　品　　名
三　菱 農業機械 純 正 油	スーパーマルチＳＴＯＵオイル （SAE10W－30、SD/CD/GL－4）
	スーパーマルチＧＢオイル （SAE80W、GL－4）
全　　農	トラクターギヤ80 GL-3　または トラクターギヤ スーパーマルチ GL-4 75W-80
JX日鉱日石エネルギー	ファームギヤＢ（SAE80W、GL－4） ファームユニバーサル （SAE10W－30、SD/CD/GL－4）

・またはＡＰＩサービス分類ＳＥ級以上（マルチSTOUオイル可）10W－30をご使用ください。

・スーパーマルチＳＴＯＵオイルまたはＳＡＥ10W－30は気温20℃以上でご使用の場合は、オイルの消費量が増すことがありますので、**「運転前の点検」**を行なってください。

4. 付属部品一覧表

No.	部　　品　　名　　称	個数	備　　考
①	取扱説明書	1	
②	保証書	1	
③	オイル給油要領書	1	
④	プラグレンチ	1	

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは、下記の点を明確にして、お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の商品名(区分)と機械番号(製造番号)は…？

商 品 名(区　　分)

機械番号(製造番号)

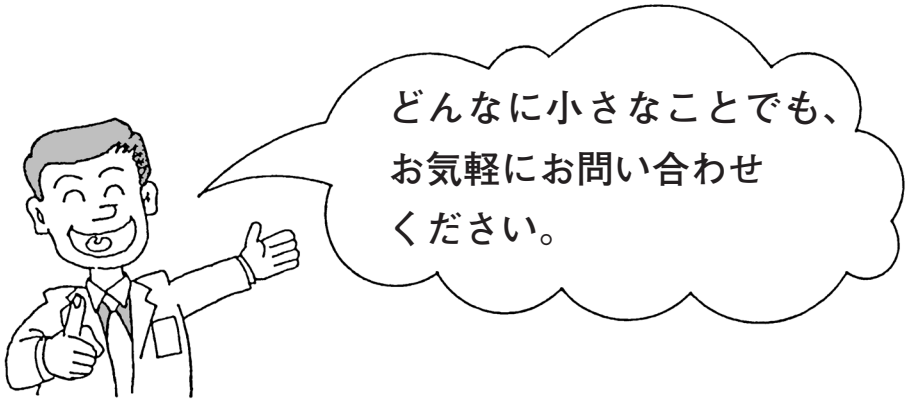
●ご使用状況は…？

(何速で、どんな作業のとき)

●どのくらい使用されましたか？

(約 _____ アール使用後)

●トラブルが発生したときの状況を、できるだけ詳しくお教えください。



(ご相談窓口) お買いあげ先

ＴＥＬ　　(　　)